

第64回九州地区公民館研究大会 福岡大会

平成25年度 第58回福岡県公民館大会

活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして
～自立・協働・創造の実現は公民館から～



※期日【1日目】分科会 平成25年8月29日(金)

【2日目】全科会 平成25年8月30日(土)

※会場【1日目】分科会 福岡国際会議場・福岡サンパレス

【2日目】全科会 福岡市民会館

第64回 九州地区公民館研究大会 福岡大会

平成25年度 第58回福岡県公民館大会

目 次

1	公民館の歌		
2	挨拶・祝辞・歓迎のことば		
	(挨拶)		
	九州公民館連合会 会長	中 嶋 裕 史	1
	公益社団法人全国公民館連合会 会長	鹿 熊 久 三	2
	福岡県教育委員会 教育長	杉 光 誠	3
	(祝辞)		
	福岡県知事	小 川 洋	4
	福岡県議会議長	松 尾 統 章	5
	(歓迎のことば)		
	福岡市長	高 島 宗一郎	6
3	開催要項		8
4	分科会		
	分科会構成		10
	分科会役割者一覧		11
	会場案内図		12
	第1分科会 地域教育力の向上		13
	第2分科会 家庭教育		19
	第3分科会 高齢化社会への対応		25
	第4分科会 人権教育		31
	第5分科会 自治公民館活動		37
	第6分科会 青少年教育		43
	第7分科会 ボランティア活動		49
5	全体会		
	アトラクション 精華女子高等学校吹奏楽部プロフィール		56
	表 彰 被表彰者一覧		57
	記 念 講 演 シンガー・ソングライター 野田かつひこプロフィール		58
6	資料		

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

快活に ♩ = 104

mf

1. へ い わ の は る に あ た ら し く
2. こ こ ろ の は な の の に お や か に
3. は た ら く も の の や す ら か に

f *p*

きよ (きよう) ど を お こ す よ ろ こ び も こ う み ん か ん の
きよ (きよう) ど を お こ す よ ろ こ び も こ う み ん か ん の
きよ (きよう) ど を お こ す よ ろ こ び も こ う み ん か ん の

mf *f*

つ べ い か ら と き け あ う ー こ こ ろ な う ご や ー か
つ べ い か ら と き け あ う ー こ こ ろ な う ご や ー か
つ べ い か ら と き け あ う ー こ こ ろ な う ご や ー か

mf

に い じ ぶ ー の の あ い さ を た た え ー ー
に い じ ぶ ー の の あ い さ を た た え ー ー
に い じ ぶ ー の の あ い さ を た た え ー ー

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

- 一、 平和の春にあたらしく
郷土を興すよろこびも
公民館のつどいから
とけあう心なごやかに
自由の朝をたたえよう
- 二、 心の花におやかに
郷土にひらくゆかしさも
公民館のつどいから
希望を胸に美しい
文化の泉くみとろう
- 三、 働くものの安らかに
郷土に生きるたのしさも
公民館のつどいから
まどいになごむひとときに
明日への力そだてよう

挨拶



九州公民館連合会

会長 中 嶋 裕 史

九州各県関係者の皆様御参集のもと、第64回九州地区公民館研究大会を、「アジアの交流拠点」をめざすここ福岡の地で盛大に開催できますことを主催者として大変嬉しく思いますとともに、心から感謝申し上げます。

ご参加の皆様におかれましては、日頃から、それぞれの地域において公民館活動をはじめ社会教育活動の推進にご尽力いただいておりますことに対し、深く敬意と感謝の意を表します。

また、本大会において表彰を受けられる優良職員及び功労者の皆様方には、心よりお祝いを申し上げます。

さて、近年、少子高齢化や核家族化などの進展、情報技術の高度化、ライフスタイルや価値観の多様化など、社会を取り巻く環境が大きく変化し、地域における人間関係や連帯感の希薄化、地域コミュニティの再生が大きな課題となっています。

このような中、公民館は、地域住民の学習活動や交流の拠点施設として、地域の実態に即した様々な活動を展開してきました。今後は、個人の要望と社会の要請に応えるため、さらに、公民館活動を中核とした体制や環境を整えていく必要があります。

そこで、本大会のテーマとして「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして～自立・協働・創造の実現は公民館から～」を掲げ、これからの公民館の在り方や直面する諸課題の解決に向けて研究協議を深めたいと考えております。

この研究大会をとおして、本日ご参加の皆様一人ひとりが、これからの公民館やご自身の果たすべき役割を再認識していただき、実り多いものになりますことを願っております。

終わりにになりましたが、本大会の開催のためにご尽力いただきました地元福岡市をはじめ関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご参加の皆様方の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして挨拶といたします。

挨拶



公民館を地域の「絆」づくりの場に

公益社団法人全国公民館連合会

会長 鹿熊久三

「第64回九州地区公民館研究大会 福岡大会」を開催するにあたり、主催者のひとりとしてご挨拶申し上げます。皆様におかれましては、日ごろから公民館活動の充実・発展のために貢献され、活動されていることに対しまして、深く敬意を表します。

ご承知のとおり、社会の潮流は既に急激な変化のなかにあります。人口の減少、超高齢社会、過疎化など、経験したことのない時代に入っています。人と人との絆、支え合う力、他人を思う力などが失われ、地域コミュニティが崩壊の一途をたどっております。本年1月、第6期中央教育審議会生涯学習分科会の議論の整理として公表されましたなかに、公民館はさまざまな行政、関係機関などと連携・協働して地域コミュニティの拠点の役割を担い、ソーシャルキャピタルの醸成・構築を図りながら、公民館の原点であります、「集い」「学び」「結ぶ」場として地域の活性化を牽引し、地域コミュニティを再生させることが重要だとされております。

文部科学省では、今年度新規事業として「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に、厳しい財政事情にもかかわらず、2億円余りの予算を計上していただきました。公民館が評価されるには、公民館が従来からの発想にとらわれることなく、今まで以上の大変な努力が必要であると思っております。この事業で求められた以上の結果が出ることを期待しております。

公民館の設置者である地方自治体のなかには、社会教育主事の設置義務の廃止をはじめ、社会教育法の縛りをできるだけ廃止しようとする動き、あるいは施設の整備から機能の確保、新規の整備から既存施設の有効活用へと、転換を模索する動きも顕在化しております。これから公民館を取り巻く環境はますます厳しくなっていくものと思っております。公民館ならではの人々の絆、地域の絆をさらに強くする活動を誇りを持って推進し、公民館が地域課題の解決の拠点としての役割を従来にも増して真剣に果たしていくことが求められています。

本大会を契機に、ご参会の皆様が知恵を絞り、互いの絆を深め、それぞれの公民館が地域の特性や持ち味を活かし、今まで以上に地域の社会教育の中核としての機能を発揮できる研修の場となりますよう、心より祈念申し上げます。

結びに、本大会の開催に当たって、多大なご支援・ご協力をいただきました文部科学省をはじめ、関係機関・関係団体、九州各県の公民館の皆様へ、心よりお礼を申し上げて、主催者のご挨拶といたします。

挨拶



福岡県教育委員会
教育長 杉 光 誠

第64回九州地区公民館研究大会が、九州各県から多数の公民館関係者、社会教育関係者等の皆様をお迎えし、盛大に開催できますことを心から感謝申し上げます。

皆様方には、日頃から、公民館活動の振興充実に向けまして、それぞれの地域の実情に応じた取組を展開され、大きな成果を収めておられますことに対しまして、深く敬意を表します。

また、この後、公民館活動をとおして、地域社会の教育文化の向上に寄与された方々に対しまして、全国公民館連合会から表彰状が授与されます。受賞されます皆様のご功績に対しまして、心よりお祝いを申し上げます。

さて、公民館はこれまで、地域住民の学習ニーズに応じた学級・講座を実施するとともに、地域住民間の絆を築き、各地のコミュニティの形成に寄与することで、社会教育推進の中核を担ってきました。しかし、近年の都市化や少子高齢化の進行、情報化や国際化の進展等、社会情勢の急激な変化に伴い、地域社会が緊急に取り組まねばならない現代的課題が山積しております。

福岡県教育委員会では、学校・家庭・地域・行政が連携し、様々な施策・事業に取り組んでいるところであり、市町村に対する支援や情報の収集・提供等をとおして社会教育の一層の振興を図ってまいりたいと考えております。

公民館関係の皆様方におかれましても、今後、公民館が社会教育推進の拠点として、関係部局や関係機関と連携・協働しつつ、地域の課題解決に向けた学習機会の提供や地域活動の支援等を地域コミュニティのさらなる活性化につなげていくという大きな役割を期待されています。

このような意味から、「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」のテーマのもとに、九州各県の公民館関係の皆様方が一堂に会し、これからの公民館のあるべき姿を求めて研究討議を深め、今後の活動に活かされますことは、極めて意義深いことであると思います。

終わりに、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に対し、心からお礼申し上げますとともに、大会へご参加の皆様方の今後のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

祝 辞



福岡県知事

小 川 洋

九州各県から多数の参加者をお迎えして、第64回九州地区公民館研究大会が盛大に開催されますことを、お喜び申し上げますとともに、皆様のご来県を心から歓迎いたします。

公民館活動を通じて、自分たちの暮らす地域を自分たちの力で楽しく活気のある地域にしていこうと日々尽力されている皆さんに、心から敬意と感謝の意を表します。

近年、核家族化や都市化の進展とともに、地域で暮らす人と人との結びつきが希薄になっているといわれています。こうした中、東日本大震災では、家族、そして人や地域とのつながり、いわゆる「絆」の大切さを改めて実感しました。本県でも、昨年の九州北部豪雨により甚大な被害を受けましたが、その際にも「絆」が至る所で発揮され、地域住民同士の結びつきの重要性が再確認されました。

これからは、人と人との絆を一層強固なものとし、お互いが協力し助け合う社会をつくっていくことが重要であり、地域の人々が集い、学びあう「共助社会」づくりの拠点として公民館の果たすべき役割はますます重要になってきます。

九州の公民館関係者が一堂に会し、「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」をテーマに、新しい時代の公民館像について研究協議が行われることは、誠に意義深いことです。

現在、本県におきましては、県民一人一人が幸福を実感でき、未来に向かって夢や希望が持てる地域社会を目指しています。特に、次代を担うたくましい子どもの育成を図るため、「青少年アンビシャス運動」や「教育力向上福岡県民運動」などを通じて、地域の活動拠点である公民館をはじめ、学校、家庭、企業などとも連携して、地域全体で子どもを育む気運の向上に取り組んでいます。今後とも、皆さんとの連携を密にしながら、誰もが住みよい地域づくりを進めてまいりますので、ご支援とご協力をお願いします。

九州公民館連合会のますますのご発展と、参加される皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

祝 辞



福岡県議会議長

松 尾 統 章

平成25年度 第64回九州地区公民館研究大会 福岡大会が、多数の公民館関係ならびに生涯学習・社会教育関係の皆様方のご出席のもと、盛大に開催されますことを、地元福岡県議会を代表いたしまして、心からお喜び申し上げます。

ご列席の皆様方におかれましては、それぞれの地域での公民館活動を通じて、地域の活性化や住みよい地域づくりにご尽力いただいておりますことに対しまして、深く敬意を表します。

また、本日、永年にわたる活動へのご功績により、栄えある表彰を受けられます皆様におかれましては、心からお祝い申し上げます。

さて、少子高齢化や家族形態の多様化、都市化の進行などの社会の変化は、子育てや教育をはじめ、福祉、防災活動、地域文化継承など、これまで地域社会全体で支え合い、見守り、取り組んできた「コミュニティ機能」にも大きな変化をもたらしています。

このような中、それぞれの地域の特性を生かし、個性豊かで活力ある地域社会づくりを推進していくためには、地域が抱える社会的課題の解決に向けた支援をはじめ、家庭や地域の連携を促進する取り組みなど、地域の中核をなす機関として、公民館の果たすべき役割はますます重要になるものと考えます。

皆様方におかれましては、本大会を契機としまして、地域の特色を生かした魅力ある公民館活動の推進に、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

福岡県議会といたしましても、県民の皆様方の安全・安心な生活と活力ある地域づくりなど、公民館活動の充実に向け、引き続き、精一杯の支援をして参りたいと考えております。

終わりに、本大会の開催にあたり、多大なご尽力を賜りました公益社団法人 全国公民館連合会ならびに、九州公民館連合会、福岡県公民館連合会の今後ますますのご発展と、皆様方のご活躍、ご健勝を心より祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

歓迎のことば



福岡市長

高 島 宗一郎

第64回九州地区公民館研究大会が、福岡市におきまして盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、九州各地からお越しいただきました皆様を心から歓迎申し上げます。

本日の研究大会にご参加の皆様方におかれましては、日頃から公民館活動を通じて、生涯学習の振興ならびに地域のコミュニティ活動への支援のために、多大なご貢献をいただいております、そのご尽力に対しまして深く敬意を表する次第でございます。

さて、近年、少子高齢化や核家族化などの進展、急速に進む情報技術の高度化、さらにはライフスタイルの変化や価値観の多様化など社会を取り巻く環境が大きく変化してきていることに加え、東日本大震災や昨年九州北部豪雨災害での多くの教訓も踏まえ、あらためて、地域の絆づくり、更には地域における防災力の向上に向けた、「安全・安心なまちづくり」のためにも、公民館が果たすべき役割は重要であると感じております。

福岡市では、全国的にも評価いただいている小学校区毎に設置している公民館がもつ「集まる」「学ぶ」「つなぐ」という三つの機能を最大限に活用し、校区の自治協議会や関係団体と連携した地域コミュニティ活動の活性化を図るとともに、住民主体のまちづくりを進めるため、その担い手である地域に潜在している人材の発掘・育成にも努めております。

このような時に、「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして～自立・協働・創造の実現は公民館から～」のテーマのもと、日頃の実践と情報を交換し、これからの公民館のあるべき姿を求めて研究協議されますことは誠に意義深く、本大会の成果が、今後それぞれの公民館活動に活かされるものと、大きな期待を寄せております。

福岡市は、長い歴史に培われた伝統や文化に恵まれ、都市としての魅力と博多湾に代表される美しい自然を併せ持つ、独自の個性と魅力を持つ都市として、成長を続けています。本年5月には、全国的に人口減少が進む中で、市の人口が150万人を突破しました。市ではこれをきっかけに、さらに住みやすく、活気のある都市にしていくための取り組みを進めていきたいと考えています。

来年、2014年には大河ドラマ「軍師官兵衛」が放送されますが、市内には黒田家ゆかりの地が数多くございますので、この機会に皆様にご観覧いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本大会の開催にご尽力賜りました関係者の皆様に対し、厚く御礼申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍を祈念いたしまして歓迎のことばといたします。

平成25年度 第64回九州地区公民館研究大会 福岡大会

平成25年度 第58回福岡県公民館大会

開催要項

1 趣 旨

近年、少子高齢化や核家族化などの進展、情報技術の高度化、ライフスタイルや価値観の多様化など、社会を取り巻く環境が大きく変化し、地域における人間関係や連帯感の希薄化、地域コミュニティの再生が大きな課題となっている。

このような中、公民館は、地域住民の学習活動や交流の拠点施設として、地域の実態に即した様々な活動を展開してきた。今後は、個人の要望と社会の要請に応えるため、活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして、公民館活動を中核とした体制や環境を整えていく必要がある。

そこで、九州の公民館をはじめ、生涯学習・社会教育関係者が一堂に会し、日頃の実践をもとに、これからの公民館の在り方や直面する諸問題の解決に向けて研究協議を深め、今後の公民館活動の一層の充実・発展を図るために本研究大会を開催する。

2 大会テーマ

「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」
～自立・協働・創造の実現は公民館から～

3 主 催

公益社団法人全国公民館連合会、九州公民館連合会、福岡県公民館連合会、
福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会

4 後 援

文部科学省、九州各県教育委員会、福岡県、北九州市、福岡県市長会、福岡県町村会、
福岡県市町村教育委員会連絡協議会、福岡県社会教育委員連絡協議会、福岡県視聴覚教育協会、
福岡県青少年問題協議会、福岡県地域婦人会連絡協議会、福岡県子ども会連合会、福岡県PTA連合会、
福岡県文化団体連合会、福岡県明るい選挙推進協議会、福岡県金融広報委員会

5 期 日

平成25年8月29日（木）～30日（金）

6 会 場

- | | | |
|----------------|--|--|
| (1) 分科会会場（1日目） | 福岡国際会議場
福岡市博多区石城町2-1
TEL：092-262-4111 | 福岡サンパレス
福岡市博多区築港本町2-1
TEL：092-272-1123 |
| (2) 全体会会場（2日目） | 福岡市民会館
福岡市中央区天神5-1-23
TEL：092-761-6567 | |

7 参加者

- (1) 公民館等関係者（公民館長、公民館主事及び公民館職員、公民館運営審議会委員、自治公民館関係者、コミュニティ施設関係者等）
- (2) 教育委員会関係者（教育委員、社会教育委員、教育委員会職員等）
- (3) 社会教育団体関係者
- (4) 市町村長部局関係者

- (5) 学校教育関係者
- (6) 教育・スポーツ・文化・NPO 関係者
- (7) その他

8 参加予定人数 1,500人

9 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
【前日】 8月28日 (水)							会長会	九公連 理事会	分科会 打合せ		レセプション
【1日目】 8月29日 (木)					受付	分科会					
【2日目】 8月30日 (金)	受付	全体会									
		アトラクション	開 会 行 事	記 念 講 演	閉 会 行 事						

(1) 1日目 分科会 会場 福岡国際会議場・福岡サンパレス
 受付 12:30~13:30
 分科会 13:30~16:30

(2) 2日目 全体会 会場 福岡市民会館
 受付 9:00~9:30
 アトラクション 9:30~10:00
 「精華女子高等学校吹奏楽部による演奏」

開会行事 10:00~11:00
 ・開会のことば 九州公民館連合会副会長（長崎県公民館連絡協議会会長）
 ・国歌斉唱
 ・公民館の歌斉唱
 ・主催者あいさつ 九州公民館連合会会長（福岡県公民館連合会会長）
 公益社団法人全国公民館連合会会長
 ・来賓祝辞 福岡県知事
 福岡県議会議長
 ・歓迎のことば 福岡市長
 ・表彰

記念講演 11:00~12:20
 ・講師 野田 かつひこ シンガー・ソングライター
 ・演題 「ふるさとを想う」

閉会行事 12:20~12:30
 ・閉会のことば 九州公民館連合会副会長（鹿児島県公民館連絡協議会会長）

研究大会 1 日目 分科会

平成25年 8月29日 (木)

【分科会構成】

分科会名	討議のテーマ	討議の柱	会場 (収容人数)
第1分科会	地域教育力の向上	①地域の関係機関・団体等と連携した公民館活動の在り方について ②学校、家庭、地域による教育の協働を推進するための公民館活動の在り方について	福岡サンパレス パレスルームA/B (306名)
第2分科会	家庭教育	①家庭教育力向上に関する学習機会や情報を提供する公民館活動の在り方について ②子育てを支援し、ネットワークを広げる公民館活動の在り方について (NPO等の多様な団体との連携を含む)	福岡国際会議場 502・503 (195名)
第3分科会	高齢化社会への対応	①高齢者の社会参加を促進する公民館活動の在り方について ②地域福祉等の推進に向けた公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 501 (264名)
第4分科会	人権教育	①人権感覚を高め、明るい地域づくりをめざす公民館活動の在り方について ②共生社会の実現をめざし、人権教育を推進する公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 411・412 (195名)
第5分科会	自治公民館活動	①住民の生きがいづくりを促進するための講座とその運営の在り方について ②自治意識・連帯感を高めるための組織・運営の在り方について	福岡国際会議場 201・202 203・204 (882名)
第6分科会	青少年教育	①地域で子どもを見守り、育てる公民館活動の在り方について ②体験活動、ボランティア活動等を推進する公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 409・410 (195名)
第7分科会	ボランティア活動	①地域の課題解決をめざすボランティアや地域貢献活動の在り方について ②地域の人材・資源を生かし、地域を活性化させるための公民館活動の在り方について	福岡国際会議場 413・414 (195名)

【分科会役割者一覧】

	発表者	助言者	司会者	記録者	運営責任者	会場責任者	受付責任者
第1分科会	宮崎県大人・古園地区協議会 代表 甲斐 睦彦 嘉麻市嘉徳地区公民館足白分館公民館主事 森 裕治 嘉麻市中央公民館係長 矢野 義博	宮崎県教育庁生涯学習課主幹 森山 欣一	筑豊教育事務所主任社会教育主事 松田 雄三	筑豊教育事務所社会教育主事 古賀 千絵 三浦 風弥	糸田町民会館課長補佐 尾崎 満敏	筑豊教育事務所社会教育主事 石場 広規	筑豊教育事務所社会教育主事 上野 修司
第2分科会	沖縄県普天間一区自治会 自治会長 屋嘉比 盛栄 北九州市立鳴水市民センター館長 永田 恭子	沖縄県公立大学法人名桜大学教授 嘉納 英明	福岡県立社会教育総合センター主任社会教育主事 北冨 真治	北九州市門司区役所コミュニティ支援課社会教育主事 篠原 幸枝 北九州市小倉南区役所コミュニティ支援課社会教育主事 松尾 まゆみ	北九州市若松区役所コミュニティ支援課社会教育主事 下神 晶子	北九州市教育委員会生涯学習課社会教育主事 井上 幸一郎	北九州市八幡西区役所コミュニティ支援課社会教育主事 金田 裕美子
第3分科会	鹿児島市喜入公民館主査 牧之瀬 陽一 糸島市立福吉公民館館長 森田 季久	鹿児島国際大学福祉社会学部教授 高橋 信行	福岡教育事務所主任社会教育主事 重富 泰敏	福岡教育事務所社会教育主事 大谷 俊浩 香月 伸公	宇美町教育委員会社会教育課主査 井川 洋志	宗像市市民協働・環境部コミュニティ・協働推進課政策推進係主事 福島 樹	福津市中央公民館係長 大石 直子
第4分科会	佐賀市立久保田公民館公民館主事 (佐賀市役所久保田出張所教育課生涯学習係長) 吉田 浩子 福岡市青葉公民館館長 山本 佑治	佐賀県多久市中央公民館館長(佐賀県公民館連合会 副会長) 川内丸 信吾	北九州教育事務所主任社会教育主事 松井 淳	福岡市東区役所地域支援課地域支援係長 上野 真由美 内野 保基	福岡市市民局公民館調整課運営係長 日野 雅彦	福岡市市民局公民館調整課管理係長 守田 宣昭	福岡市市民局公民館調整課事務吏員 村上 由起
第5分科会	長崎県田ノ頭郷自治公民館元総務部長 田中 康彦 豊前市前川公民館中本 勝子	長崎県教育庁生涯学習課社会教育推進班係長 棕本 博志	京築教育事務所主任社会教育主事 猪本 満昭	京築教育事務所社会教育主事補 井上 育子 北九州教育事務所社会教育主事 村井 政文	行橋市教育委員会生涯学習課係長 村田 貴志	豊前市教育委員会教育課課長補佐 横川 要	上毛町教育委員会教務課社会教育係長 村上 英之
第6分科会	大分県由布市教育委員会社会教育課生涯学習係長 長谷川 美由紀 大刀洗町教育委員会生涯学習課社会教育指導員 宮崎 誠	大分大学高等教育開発センター准教授 岡田 正彦	北筑後教育事務所主任社会教育主事 中原 聡	北筑後教育事務所社会教育主事 岩田 史江 石橋 篤	大刀洗町教育委員会生涯学習課生涯学習係長 矢野 智行	大刀洗町教育委員会生涯学習課課長 福永 康雄	大刀洗町教育委員会生涯学習課地域活動指導員 弥永 理恵子
第7分科会	熊本県益城町教育委員会生涯学習課係長 村上 康幸 大牟田市三池地区公民館館長 鷹尾 俊介	熊本県生涯学習推進センター審議員 野尻 絹子	南筑後教育事務所主任社会教育主事 安達 浩文	南筑後教育事務所社会教育主事 安達 幸子 松延 聡	筑後市教育委員会中央公民館館長 水落 龍彦	筑後市教育委員会中央公民館庶務係長 中村 敏和	筑後市教育委員会中央公民館庶務係 弓木野 真里

全体会会場・分科会会場・案内図

● 福岡市民会館（全体会会場） 福岡市中央区天神 5-1-23 TEL：092-761-6567

【バス利用】	天神発 天神ソラリア前（2A）より 所要時間 6分 金額 100円 25 西鉄貝塚駅行き 80 中央埠頭行き 90 博多埠頭行き	博多発 博多駅シティ銀行前（F）より 所要時間 20分 金額 220円 46 博多埠頭行き
--------	---	--

【地下鉄利用】 天神駅より徒歩 15分（天神地下街 東 1a 出口利用）

● 福岡国際会議場（分科会会場） 福岡市博多区石城町 2-1 TEL：092-262-4111

福岡サンパレス（分科会会場） 福岡市博多区築港本町 2-1 TEL：092-272-1123

【バス利用】	天神発 天神ソラリア前（2A）より 所要時間 8分 金額 180円 80 中央埠頭行き	博多発 博多駅センタービル前（E）より 所要時間 14分 金額 220円 88 中央埠頭行き
--------	--	---

【地下鉄利用】 呉服町駅（地下鉄箱崎線）より徒歩 10分

- ※ 各会場での駐車場の準備はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
- ※ 乗用車でのお来場の場合、駐車場については、各自で確保をお願い致します。
- ※ 貸切バスについては、事前連絡のとおり、若干無料駐車場を用意しています。



第1分科会

地域教育力の向上

討議のテーマ

学校、家庭、地域社会による教育の協働を推進するための
公民館活動の在り方

討議の柱

- ①地域の関係機関・団体等と連携した公民館活動の在り方について
- ②学校、家庭、地域による教育の協働を推進するための
公民館活動の在り方について

◇発表者

宮崎県大人・古園地区協議会 代表	甲 斐 睦 彦
嘉麻市嘉穂地区公民館 足白分館 公民館主事	森 裕 治
嘉麻市中央公民館 係長	矢 野 義 博

◇助言者

宮崎県教育庁 生涯学習課 主幹	森 山 欣 一
-----------------	---------

・司会者	筑豊教育事務所 主任社会教育主事	松 田 雄 三
・記録者	筑豊教育事務所 社会教育主事	古 賀 千 絵 三 浦 風 弥
・運営責任者	糸田町民会館 課長補佐	尾 崎 満 敏
・会場責任者	筑豊教育事務所 社会教育主事	石 場 広 規
・受付責任者	筑豊教育事務所 社会教育主事	上 野 修 司

ポピーで育む地域の絆！

宮崎県日之影町12地区^{おおひと ふるぞの}大人・古園地区協議会
代表 甲斐陸彦

1 はじめに

日之影町は宮崎県の北部に位置し世帯数1,600戸、人口4,200人、面積は277.68km²（92%が森林）で農業を基幹産業とする典型的な中山間地域です。高齢化率は県の予測では、2010年に41.3%であったものが10年後の2020年には47.5%とされ、人口減少と高齢化が更に加速することを表しています。また、平成の大合併では隣町の高千穂町、五ヶ瀬町（西臼杵郡）ともども合併しない道を選びました。

平成18年4月に全国で初めて、「森林セラピー基地」の認定を受け、癒しと森林浴を求めて週末には多くの人々が訪れています。

「日之影町」の名前は、神話に基づく伝説に由来します。雲の間から差し込む「日の影」が地名として今日に至っています。

さて、今大会の趣旨にありますように私の地域においても少子高齢化や核家族化が急速に進み、社会を取り巻く環境が大きく変化し、地域における人間関係や連帯感の希薄化が懸念され、伝統芸能などの継承が危ぶまれています。そこで、日之影町では平成17年に長期総合計画で「町民が誇りとゆとりを持って生活できる町」を創造するための指針として、町内を12地区に分けた12地区協議会が発足しました。それぞれの地区が独自性ある活動計画を実行することにより、日之影カラーを出そうというものです。それを背景として「ポピーで育む地域の絆！」と題して、^{おおひと ふるぞの}大人・古園協議会の取り組みを紹介します。

2 ^{おおひと ふるぞの}大人・古園協議会

^{おおひと ふるぞの}大人公民館と古園公民館の二つの公民館で設置したものです。この指生まれで集まった12名の会員と、オブザーバーとしてそれぞれの公民館長を迎え入れ

た組織です。

3 協議会の目的

急速に進む少子高齢化を踏まえ、独居老人の増加や地域の疲弊感、伝統芸能の継承問題、中山間地に潜在するあらゆる問題解決に対処する為に、公民館と地区協議会が連携することにより、地域住民全員参加型を目指し「やらされている」から「やっている」と自発的行動に繋げ、知恵と行動力と連帯感の創出を目的とするものです。

4 ^{おおひと ふるぞの}大人・古園地区の宝の再発見・活用

役場から約3キロの位置にあり、世帯数140戸、350人が暮らし、平均年齢は54.8歳で50歳代以上が60%を超えています。集落内には高さ100mの「龍天橋」や町内唯一の日之影中学校があります。朝夕には生徒たちのあいさつや笑い声、その姿を見る時が私たちの地区が元気の出る時間帯となります。

当地区に伝わる伝統芸能には「^{おおひと}大人神楽」、「^{おおひと}大人歌舞伎」と「^{ふるぞの}古園棒術」があり、それぞれの保存会により継承されています。毎年1月に夜神楽を実施します。中には遠方から^{ほしや}奉仕者（神楽を舞う人）として帰って来てくれる学生もいます。

九州唯一といわれ、宮崎県無形民俗文化財に指定されている「大人歌舞伎」は、城主甲斐^{そうせつ}宗攝を偲んで古くから当地区に伝わり、10月に大人神社の秋祭りに奉納されます。「^{ふるぞの}古園棒術」は、戦国時代に各地で頻発した^{いっこういき}一向一揆により伝えられたと言われていいます。それぞれの祭りの前には練習が1ヶ月程行われ、練習後には焼酎が酌み交わされ貴重な情報交換の場となります。

5 1年間の主な取り組み

ステップ1（計画）「公民館と地区協議会の連携」

口蹄疫にみまわれた宮崎県。「頑張ろう宮崎」が合言葉となり、当地区も絆と元気の出る取り組みとして稲の収穫が終わった休耕田に、5月に咲く花としてポピーを選び、土地の提供者を公民館役員に呼び

掛けていただいて募集しました。その結果、初年度は130aの提供を受け、種子の購入には町の予算をいただきました。耕耘、種まき、管理について役員会を重ねる度に様々な意見が出されましたが、「ポピーを核にイベントを実施しよう！」という提案に皆が賛同しました。絆が形に変わる瞬間でした。

ステップ2（行動）「種まきで婚活！」を実施

地元独身男性と県内独身女性との婚活を行い、その後地区の祭り等に招待し、年間を通じた交流を行おうと考えました。現在、1組進行中と聞いています。

ステップ3（行動）「ポピー祭りの開催」

当地区の「歌舞伎の館」をメイン会場として、「新



★楽しんでま〜す！

緑に誘われポピーとスローなひと時！」をスローガンに開催。日之影中学校ブラスバンドのオープニングで始まり、会場を盛り上げてくれた九州保健福祉大学の「エイサー」。会場の施設を利用した「釣り堀」コーナー。準備には一週間前に地元消防団が訓練を兼ねて行いました。更に青年団のサポートによる7キロのコースでのウォーキング。イベントに欠かせない存在が宮崎県の「中山間盛り上げ隊」の皆さんの協力です。NPO法人「みんなのくらしターミナル」が事務局となり、県内の中山間地に登録隊員が作業のお手伝いをするというもので、発足から5年、当地区の力強い味方です。中でも嬉しいことは、リピーターで来てくれる隊員がいらっしゃることです。今では地元の人よりテキパキと作業をして頂くほどで、親戚感覚でお付き合いをするようになりました。まさしく「ポピーで育む地域の絆」と言えます。今年も天気予報で雨。役員会での態度決定では、「ポピー祭りせんかったら意味がねえじゃろ。」と公民館長の意見。「雨ぐらいで辞めたら今後続かんじゃろ。」と青年団長。やる気を感じた嬉しい瞬間でした。

ステップ4 「自発的行動へ」

協議会お薦めスポット「天空の丘」での「元日、初日の出見会」の開催です。前日、大晦日の忙しい中、地元のおばさん達が率先して美味しく準備してくれた猪汁、ぜんざいを婦人会の方が振る舞い、暖を取りながら日の出を待ちます。地区住民はじめ、ジョギングで訪れた親子の姿も見られ「〇〇さんち

の〇君じゃがね〜」「お久しぶりです。お元気でしたか？」等、懐かしい再会もあり、公民館長の万歳で盛り上がり、田舎ならではの光景で新年早々晴れやかな気持ちになります。

6 取り組みの成果として（評価）

企画、立案した行事をまず地元住民が楽しむことによって、地区外からの関心が寄せられ、共感を生み交流も盛んになり、リピーターも増え、新たな進展を見せています。その事が地元住民の大きなモチベーションとなり、これからの課題解決の方向性を示していると考えられます。まさに「天照^{あまてらす}皇大神^{おおみかみ}」が天岩戸からお出になる様子を想い浮かべます。

地元の声（宮崎日日新聞）抜粋

「私の住む大人地区には神楽や歌舞伎など多くの文化があり、更に地区協議会の活動により元氣と絆があります。私も今年父親になりました。こういう素晴らしいふる里で子供が育てられる事を誇りに思います。」

7 今後の課題（改善）「短期で終わらせない工夫」

急速に進む少子高齢化社会、そこには晩婚化が潜在し、嫁不足が一因と言われています。「出会いがない」「経済力がない」「何を話してよいか分からない」と思っているうちに機を失ってしまうのが現状ではないでしょうか。だからこそ「一人は皆の為に、皆は一人の為に」を合言葉に、一丸となって地域興し、経済興しに取り組み、それぞれが本気になって、個性と知恵と汗を出せば、連帯感と元氣が生まれ答えが少しでも見えてくるはずで。その核となる協議会でありたいと考えます。



★友達誘って来ました癒されてます！

子どもと地域を結ぶ学校と公民館の役割

～「足白っ子ひろば」をとおして～

福岡県嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館

公民館主事 森 裕 治

福岡県嘉麻市中央公民館

係長 矢野 義博

1 はじめに

(1) 地域の概要

足白地区は、福岡県中央部にある嘉麻市の南部に位置し、山林と農地に囲まれた自然豊かな中山間部地域（九州りんご村がある。）で、世帯数226戸、人口約740人、地元足白小学校（児童数33人）区に公民館があり、合併前は嘉穂町公民館足白地区公民館と位置づけていましたが、合併後は嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館と位置づけられました。なお、嘉穂地区には、足白分館を含み全体で4つの分館が設置されています。

また、嘉穂地区（旧嘉穂町）には小学校が6校あり、内5校が平成26年4月に統合され、嘉穂小学校として新設校が開校します。そのため足白小学校も廃校となり、地域から小学校がなくなります。

2 活動の内容

(1) 事業発足までの経緯

「小学校がなくなると…」⇒「子どもの声が聞こえなくなる。」⇒「運動会（地域のお祭り）がなくなる。」⇒「学校とのつながりがなくなる。」…ということで、地域のコミュニティの衰退、ひいては地域の教育力の低下という地域の課題であることを住民全員が思い始めました。

今までは、小学校が地域と子どもたちとの関わりの場を提供してくれていましたが、これからは、公民館が学校に代わって地域と子どもたちの関わりの場を提供しようと、平成23年2月から分館運営委員会や地域の団体で会議を行っていきました。

（※構成：行政区長、足白財産管理委員会、長生会、小学校長、PTA 会長、子ども会、地域女性団体、営農組合、消防団外地域ボランティア団体など）

足白地区は、平成15年7月に「足白っ子アンビシャス広場」が開所されていましたが、その後ボランティアや推進員の減少により活動が衰退し、平成18年に

活動が停止となりました。

そこで、足白分館において青少年健全育成事業の一つとして以前、実施していた「ひろば事業」が実施できないかと結論となり、以後、実施に向けて会議を重ねていきました。

出てきた意見としては、「ひろば事業」の実施にあたっては、新たな事業が地元に増えるという見方がされれば、かえって保護者や地域の方が負担と考えられます。しかし、足白地区は、昔から全村PTAという組織が存在しているので、全村PTAとの連携を行って開催することを考えました。

（※参考「全村PTA」とは、足白校区内の子どもにない世帯も含め、地域の団体組織や地域全員が参画し、学校行事等全面協力していること。）

(2) 事業内容

「足白ひろば」の開催にあたっては、足白地区全児童と全住民を対象に、地域の特色「人・もの・こと」を活かした事業内容の検討を行いました。

「人・もの」については、各組織団体が自ら役割を担い、スムーズに役割が分担されました。また、活動場所となる田んぼについても進んで提供してくれるなど、この事業のサポート体制は、地域の特色が活かされたものになりました。

「こと」については、地域の特色である農業をいかし、農業体験を中心に田んぼでできる遊びや、地元で取れる食材を食するなどの地域に密着した体験活動を行うようにしました。

この活動を通して、参加者からの声として地域の方々からは「子どもたちをみると元気がでる」、子どもたちからは「じーちゃん、ばーちゃん遊びに来てね」と世代間を越えた交流から地域を愛する心が芽生えたと感じています。



(平成 24 年度「足白ひろば」活動内容から)

月・日	体験活動		参加者数	
			子ども	地域
6/9 (土)	田植え 泥んこ遊び	猪肉の カレーライス	24	56
10/20 (土)	稲刈り 田んぼサッカー	足白産コメの おにぎり	31	39
12/8 (土)	しめ縄づくり 昔遊び	収穫した もち米で餅つき	46	43

(※子どもの数は、幼児から中学生まで含めた数)

3 事業の成果

事業の成果としては3つ上げられます。

一つ目は、子どもたちに郷土愛を育みたいと思う小学校と、多くの地域の人々を巻き込んだ事業をしたいと思う公民館、また、小学校廃校への危機意識を持った地域住民の三者の思いが一つにまとまり、「足白っ子ひろば」の構想から実施まで行うことができました。

二つ目は、事業運営の役割分担において、農業体験の準備は営農組合。田んぼのできる遊びの企画は学校と子ども会。食事関係は、地域女性団体など、多くの地域の方々が関わり、地域の協力体制が構築され、学校・地域・公民館の信頼関係が深まりました。

三つ目は、地域住民がこれからの足白を考えるようになって、みんなで話し合いをする機会が増え、住民自治の向上が図られ、地域の子どもは地域で育てることが大切であるという思いが更に深まりました。

以上三つの成果が上げられます。

4 今後の課題として

(1) 廃校後のコミュニティについて

小学校の廃校により、今まで行うことができた学

校との連携ができることが課題です。(他の3分館でも同様。)また地域コミュニティの衰退も懸念されるが、足白地区では、この「ひろば事業」を手段として地域コミュニティの衰退に歯止めをかける思いです。

残り半年余りに迫った消滅するであろう「学校・地域・公民館との連携」に代わる策として『子(ども)・公(民館)・地(域)、いい策』を地域全体で考え、「地域全体で考える」ということを「足白っ子ひろば」と融合させ、地域コミュニティの向上を図っていくことを関係者全員で誓ったものです。

(2) 廃校跡地を考える

現在、嘉麻市教育委員会嘉穂小学校開校準備室では、廃校後の跡地問題として地元行政区関係者をはじめ、PTAといった代表者数名にて、学校ごとに跡地委員会(仮称)を設置し協議・研究を行っていくよう計画が進められています。

この会にも、当然のごとく足白全住民の思いを寄せながら地域一体となり全力で努める思いです。

(3) 今後の展望

地域の現状、また、地域に課せられた問題など解決するための取組みはもちろんのこと、子どもから高齢者まで地域全員の幸せと健康を推進する場として公民館が再認識されていると考えます。

また、子どもの豊かな心と確かな学力を育てるために、子どもの意欲・やる気等を育てる取組みが重要です。その取組みとして地域・学校・保護者と連携した多様な体験活動等を実施し、「自ら学び、自ら考える力」を培うことが現代の子どもたちに必要な項目の一つであると考えており、その任務も公民館に課せられた課題の一つと認識しています。

これから先、足白分館に何ができ、何を求められているのかを、これからも地域住民全体で話し合いながら解決していくよう努めていきたいです。



第2分科会

家庭教育

討議のテーマ

家庭教育支援のための公民館活動の在り方

討議の柱

- ①家庭の教育力向上に関する学習機会や情報を提供する公民館活動の在り方について
- ②子育てを支援し、ネットワークを広げる公民館活動の在り方について（NPO等の多様な団体との連携を含む）

◇発表者

沖縄県普天間一区自治会 自治会長

屋嘉比 盛 栄

北九州市立鳴水市民センター 館長

永 田 恭 子

◇助言者

沖縄県公立大学法人 名桜大学 教授

嘉 納 英 明

- ・司会者 福岡県立社会教育総合センター 主任社会教育主事 北 富 真 治
- ・記録者 北九州市門司区役所コミュニティ支援課 社会教育主事 篠 原 幸 枝
小倉南区役所コミュニティ支援課 社会教育主事 松 尾 まゆみ
- ・運営責任者 北九州市若松区役所コミュニティ支援課 社会教育主事 下 神 晶 子
- ・会場責任者 北九州市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 井 上 幸一郎
- ・受付責任者 北九州市八幡西区役所コミュニティ支援課 社会教育主事 金 田 裕美子

公民館における家庭教育の取り組み

～「普天間一区スイミー子ども育成会」との協力～

沖縄県宜野湾市普天間一区自治会

自治会長 屋嘉比 盛 栄

1 はじめに

(1) テーマ設定

家庭教育とは、すべての教育の原点であり、子どもの健全な身体と人格の発達のために、親、又はそれに準ずる大人が子どもに対して行う教育のことをいいます。たとえば、言葉・食事・善悪の判断などの生活習慣・社会常識・道徳・学問・社会情勢など家庭教育の内容は多岐にわたります。今回のテーマは公民館で行われる諸行事に「スイミー子ども育成会」と協力し親子や家族で参加することにより、家庭教育の一助になるであろうということを設定しました。

(2) 宜野湾市および普天間一区自治会の概要

宜野湾市は沖縄本島中部の南方に位置し、市の中央部には米軍普天間飛行場があり、その周りにドーナツ状に市街地を形成している中核都市です。人口94,750人、40,170世帯で23の行政区があります。

普天間一区自治会は、555世帯中、会員世帯数270で加入率は48.6%です。市内自治会で、少ない方から5番目の自治会です。区内には、かつて琉球国王が参拝したといわれる有名な「普天満宮」と「普天満山神宮寺」があります。自治会には、老人クラブ「若宮会」、青年会、「普天間一区スイミー子ども育成会」があります。婦人会が解散し、20年以上経つため、諸行事において、スイミー子ども会育成会の協力に大いに助けられています。子ども会育成会の主要メンバーは自治会の役員でもあり、また、自治会長及び自治会書記は子ども会育成会の特別役員で、お互いが協力し合っています。

2 活動の内容

(1) 自治会行事による家庭教育支援の

ア 夏休み宿題会

子ども会育成会の保護者は共働きが多く、また、小学生でも教えるのは難しいとの声があり、夏休みの居場所づくりも兼ねて毎週水木金の午後2時から4時まで夏休みの宿題を教えることにしました。スタートは十数名いましたが、夏休み中の宿題の終わった子は来なくなるので 最終日は一人でした。

イ 区民ピクニック

宜野湾市の福祉振興基金を活用して毎年、区民ピクニックを行っています。24年度は本部町の沖縄海洋博

公園の水族館・熱帯ドリームセンターへ行きました。(写真) 観光バス2台で総勢106名のピクニックになりました。自治会員の親族であれば他所に住んでいる方でも参加できるので、三世代、四世代で参加した世帯もありました。参加費は弁当、飲み物、入場券込みで中学生以上500円、小学生は無料です。福祉振興基金の目的の三世代交流と健康増進が果たされていて次年度以降も継続する予定です。



ウ はごろも祭り前夜祭

市で毎年8月に開催される「はごろも祭り」を盛り上げるために、市観光振興協会の助成金をベースに、「はごろも祭り」の一週間前の日曜日に開催しています。老人クラブ、青年会、子ども会等の演舞で楽しんでいます。子ども会育成会と青年会が焼きそば、ぜんざい、かき氷等をつくり、子どもたちが参加者へ配膳します。親子の共同作業で高齢者からもたいへん喜ばれます。

エ ミニデイサービス交流会

毎週火曜日に市社会福祉協議会主催のミニデイサービスを自治会で行っていますが、夏休みは高齢者の方々とスイミー子ども会の子もたちで交流会を持っています。お互いに演舞を披露し、また一緒に弁当を食べながら会話を楽しんでいます。

オ 敬老会への参加

自治会では80歳以上の高齢者のみなさんを招待して毎年、敬老会を開催しています。子ども会育成会のみなさんに司会や音響などを協力してもらっています。また、子どもたちは配膳の手伝いをやってくれます。子どもたちの演舞は、以前は歌や踊りでしたが、ここ2年は子ども獅子舞を披露し喜ばれています。普天間一区に市文化財の「字普天間郷友会の獅子舞」があり、子どもたちは郷友会の祈願行事の際の獅子舞を見学に行

き学習して好評です。

カ 年末区内清掃と CGG 運動への参加

区内清掃は成人が主で、草刈りと樹木の剪定のみですが、県下一斉の CGG 運動に合わせて親子で参加してもらい、区内を巡回して空き缶、空きビン、ごみ等を拾ってもらっています。

キ 年末もちつき大会

区内清掃終了後、市観光振興協会の「ひやみかち基金」の助成金を活用して、年末もちつき大会を開催しています。父子でもちをつき、母子で餡を入れ、きな粉をまぶして丸めています。参加者全員に配って楽しんでいます。

ク 区民新年会への参加

敬老会と同様、司会、音響、演舞、配膳など子ども会育成会に協力してもらっています。

ケ 区民グラウンドゴルフ

市社会福祉協議会の「地域ふれあい事業」としての助成金をベースにして年明けに区民グラウンドゴルフ大会を開催しています。隣にある普天間小学校のグラウンドを借りて三世代の参加で楽しんでいます。一般の部と子どもの部に分け実施。昨年の子どもの優勝賞品は26インチの自転車でした。準備、運営等、子ども会育成会にも協力してもらいました。

(2) 子ども会育成会による行事

ア 新1年生歓迎行事

小学校を通して区内の子どもにお知らせを配り、親子で参加の歓迎会を公民館で開催します。風船アートのピエロや大学の人形劇やゲーム、おやつで子どもたちに楽しんでもらい、子ども会への勧誘、育成会への参加をお願いしています。

イ 子どもエイサー道ジュネー

6月より、子どもエイサーの練習が公民館で始まります。演舞指導は青年会へ依頼しています。旧盆初日のウンケー（お迎え）の日に夕方5時頃から普天満宮と普天満山神宮寺へ奉納演舞し、その後区内を回ります。育成会及び自治会役員が協力して交通誘導など安全対策をして道ジュネーをします。区内の9カ所で演舞するので子どもたちにとってはたいへんですが、区民の要望があり、子どもたちがそれに応えています。夏の風物詩です。

ウ 夏休みラジオ体操

夏休み期間中、土日も休まず毎朝6時半より公民館駐車場にてラジオ体操を行っています。親子に混じって一般の区民も参加。最終日には参加率によって「優秀賞」などの授与があり励みになっています。一般の参加者にも参加賞があります。

エ 夏休み書道教室

区内の書道有段者をお願いして書道教室を開催し、児童に与えられた書道の夏休みの課題を仕上げられるようにサポートしてもらっています。

オ 子ども会夏祭り

普天間小学校で開催される PTA 主催の「ふてんまっ子祭り」終了後、公民館でスイミー子ども会育成会主催の「子ども会夏祭り」を開催しています。

カレーや冷やしそうめんを準備して親子参加で色々なゲームを楽しみます。

カ 子ども会ピクニック及び社会見学

教育委員会や社会福祉協議会からバスを借りて親子参加で楽しんでいます。昨年は糸満市西崎公園で遊び、昼食後は手作りおもちゃ工房やみつばち農園の見学をし、とても好評でした。

キ 子ども会クリスマスパーティー

公民館を飾り付けして親子参加でクリスマスパーティーを開催します。ゲームや余興、プレゼント交換後、保護者が扮したサンタクロースが登場して全員にプレゼントを配りパーティーを盛り上げます。



3 評価・成果

- (1) 大人の参加者が増え、活動が活発になった。
- (2) 子どもを通じて親同士も顔見知りになり、他地域から引っ越してきた住民も地域に馴染んできている。
- (3) あいさつがよく交わされる。

4 今後の課題

子どもの卒業によって、親も育成会を卒業していく。今後は卒業した親も、育成会への協力ができるようにしていきたいです。せっかく培ってきた子育てのノウハウや活動経験を地域で生かし持続可能な活動にしていきたいと思います。「地域の子は地域で育てる」を念頭に地域の活動を通して、家庭教育支援ができる地域の公民館でありたいと思います。

鳴水校区 よいところ ふれ愛 ささえ愛 子どもと一緒に 育つまち

北九州市立鳴水市民センター

館長 永田 恭子

1 はじめに（地域の概要、実態、ねらい）



八幡西区は北九州市の中でも人口が一番多く、中でも鳴水校区は副都心黒崎に隣接しながら、黒崎商店街の南側、山手に広がる住宅地域に位置し校区は鳴水小

学校、黒崎中学校に属しています。校区には大型商業施設などは存在せず、静かな住宅街で長崎街道などの魅力的な歴史と豊かな自然、交通や住環境に恵まれた校区です。人口は約5,000人 世帯数約2,500世帯。以前は、コミュニティ活動の拠点である市民センターに活気がなく、センタークラブや来館者数が少なかったです。理由として

- 1) 駐車場が狭いため、校区住民の利用度が低い。
- 2) まちづくり協議会の所属団体は個別に活動しており、連携が取れていない。
- 3) 地域が都市化、核家族化、少子化が進み地域の人々との繋がりが減少して、地域全体の「学び」や「育ち」を支える環境が崩れていることが考えられる。しかし、子育て支援に対しての活動は校区の理解度が高く通年行われていた。

そこで、活力と魅力あるコミュニティづくりを目指すため、『みんなでつくろう！！ふれあいのまち“鳴水”』をスローガンに、市民センターを拠点として、まちづくり協議会と以下の事業を実施し、より良い子育ての環境づくりに取り組みました。

- ① 子育てに優しいまちづくり推進事業
- ② 地域でGO!GO!健康づくり事業
- ③ 子ども菜園づくり事業
- ④ ホット学びたい市民講座支援事業

まず①を切り口に市民センターをまちなかのオアシスとしてフルに活用。子育て中の親子を対象にした講座や催事（各事業を絡ませる）をより多く開催することで親子の「学び」と「育ち」を支援します。

⇒家庭の教育力の向上に繋げる。

子育て支援に関わる団体（学校・地域・行政が連携）と共に「学び」の支援「場」の支援をすることで絆を深めます。

⇒地域育ちへの支援⇒地域の教育力の向上

未来の担い手を見据え、安心して安全な住み良いまちづくりに繋げることにしました。

くりに繋げることにしました。

2 活動の内容（具体的事例）

(1) 子育てに優しいまちづくり推進事業

- ・子育てネットワーク会議を毎月第4水曜日の10時～12時に開催。

【構成メンバー】 まちづくり協議会役員、子育て部会長、民生委員主任児童委員、小中学校PTA会長、校区社協福祉協力員、子育てサポーター、生涯学習推進コーディネーター、サークル代表者、子育てアドバイザー、館長、職員

<主な内容>

*フリースペースの強化「なるっ子ルーム」

未就園児を対象に毎週金曜日、10時～12時に開催。

多目的ホールを屋根のある公園として開放。子育てサポーターや児童委員、地域の方が見守る中、親子が自由に遊ぶ。なるっ子ルームでの年間プログラムを鳴水子育てサポーター「もこもこ」で組み立て知育、徳育、食育、体育などの学びと体験の場を提供する。併せて3か月毎にお誕生日会を実施しました。

*子育て講演会を開催。

(2) 地域でGO！GO！健康づくり事業

- ・健康づくりネットワーク会議を毎月第4木曜日の13時～15時に開催。

【構成メンバー】 まちづくり協議会、民生委員、小中学校PTA、校区社協福祉協力員、スポーツ推進員、健康づくり推進員、食生活改善推進員、生涯学習推進コーディネーター、サークル代表者、保健師、館長、職員

<主な内容>

*ウォーキングの強化 毎週土曜日9時～11時

市民センターに集合して、健康づくり推進員の指導のもとラジオ体操、ストレッチの後、近隣コース（4～6キロ）をウォーキング。四季に応じて多世代交流のウォーキング大会を開催。

*健康講演会を開催。

*ラジオ体操の強化（夏休み期間中鳴水小学校校庭）

*体力測定を実施。（前準備として、健康づくり会議の構成員対象に体力測定研修会を2回実施。）

*健康料理教室とふれあい昼食交流会の推進。

*健康診査の受診勧奨⇒H20（18.9%）H23（30.8%）

伸び率11.9%約106人の受診者増加！！

(3) 子ども菜園づくり事業

・毎月第2土曜日の9時半～12時に開催。

鳴水小学校の空き地を借用して地域の大人と子どもが菜園づくりに取り組みました。4月に土づくりを行い、5月に館報やチラシで菜園隊員募集。未就園児と保護者、地域ボランティアの総勢70人でスタート。

玉葱、じゃがいも、人参を植えて6月に収穫後、7月にカレーをヘルスマイト指導のもと、菜園隊員（大人と子ども）で作って食事会を行い、多世代交流を深めた。秋の野菜植えの前に土壌づくりの一環として「生ごみコンポスト」講座を開催。循環型社会の体験学習を盛り込んだ地球に優しい環境学習にも取り組みました。11月の市民センターまつりで、収穫したさつま芋、人参、大根を子ども達がワンコイン（100円）で販売。収益金は種代に充当しました。

(4) ホット学びたい市民講座支援事業

子育てと健康づくりに役立つマップを作成するため、九州大学院志賀研究室に依頼。講師に九州大学准教授の志賀先生をお迎えして、全10回の講座を開催。大学院生と一緒にまち歩きをして校区を確認。毎回ワークショップを行いマップが完成し各戸配布をしました。⇒2013年度は安心安全のハザードマップづくりに取り組みます。

【市民センターで取り組む子育て事業】

(1) 家庭教育学級の充実

鳴水小学校の児童数は237名。教育熱心な保護者が多く、小規模校の割には学級生が35人で家庭教育への関心が高い。今年度は「未来に繋ぐ。笑顔で子育て?! いつやるの!・・・いまでしょう!!」をテーマに全7回の講座を開催。人権学習を主としたプログラムを展開します。(集団適応が難しい子どもや学習へのつまずきがある子どもなど、様々な子どもや大人への理解を深め対応の仕方についても学ぶ)

(2) 生涯学習市民講座の充実

新たな人材を掘り起こすため「子育てママのリフレッシュ講座」を企画し開催しました。なるっ子ルームの開催日に合せ、託児付で全6回実施。多くの親子連れが訪れ、センターが華やき活気に溢れました。

【講座内容】①スイーツデコづくり ②あなたに似合う色は? カラー診断 ③親子でリンパマッサージ ④美味しい紅茶の飲み方⑤ジェンダーについての楽しいワークショップ ⑥中国の家庭料理(春餅づくり)

(3) 四季を通じてイベントを開催(学社連携を図る)

① 健康チェックフェア(6月)

健康講演会・体力測定・血圧・骨密度・血流・体組成・健康相談・栄養指導・運動指導など

② 鳴水キッズサマーフェスタ(8月)

竹伐体験…樋、器、箸づくり、火おこし体験、科学実

験、西瓜わり競争など

③ 市民センターまつり(11月)

キッズコンサート・ふれあい広場・子ども菜園取れたて市場など

④ クリスマス会(12月)

福岡教育大演劇部による「なんちゃってシンデレラ」
西南女学院高校生による「ハンドベルの演奏」

鳴水小学校コーラス部による合唱の演奏など



⑤ 子育てフェスタ(2月)

大型絵本の読み聞かせ・エプロンシアター・親子健康体操・英語で遊ぼう・工作・餅つきなど

*まちづくり協議会の構成団体である保育園、幼稚園の園児、小学校児童が参加。その弟妹と保護者も参加。中学校生徒にボランティアを依頼。それに関わるPTA、地域の皆さんが見守る中、催事を行いました。

毎回、市や区のマスコットキャラクターが登場して大賑わい。子ども菜園で採れた無農薬野菜で作ったカレーや団子汁をふるまいました。

3 評価・成果(活動をとおして)

- ◎ 多様な事業に取り組むことで、各種の学びを通じて多世代がセンターに集い学びを通して活動の輪が拡がり、ひとつの学びが次の学びへと繋がりました。
- ◎ 市民センターの利用頻度が増え来館者数が大幅に増加した。⇒地域活動が活発化してきました。
- ◎ 様々な会議や催事を通して若い世代が地域の方と顔見知りになり発言できる場ができました。
- ◎ 会議で提案されたことが実現されるようになりました。

4 今後の課題

- 個人の繋がりと共に組織の繋がりを強化。子育てを支えるまちづくりをさらに浸透させ定着させるため、学習機会の充実を図ります。
- まちづくり協議会の子育て部会の所属団体に鳴水子育てサポーターを構成員として参入。新たな人材を増やして育成に繋がります。
- 各種事業を継続するために活動費の助成をまちづくり協議会で予算化します。

第3分科会

高齢化社会への対応

討議のテーマ

高齢化社会における課題解決に取り組む公民館活動の在り方

討議の柱

- ①高齢者の社会参加を促進する公民館活動の在り方について
- ②地域福祉等の推進に向けた公民館活動の在り方について

◇発表者

鹿児島市喜入公民館 主査

牧之瀬 陽 一

糸島市立福吉公民館 館長

森 田 季 久

◇助言者

鹿児島国際大学 福祉社会学部 教授

高 橋 信 行

・司会者 福岡教育事務所 主任社会教育主事

重 富 泰 敏

・記録者 福岡教育事務所 社会教育主事

大 谷 俊 浩
香 月 伸 公

・運営責任者 宇美町教育委員会 社会教育課 主査

井 川 洋 志

・会場責任者 宗像市市民協働・環境部 コミュニティ・協働推進課 政策推進係 主事

福 島 樹

・受付責任者 福津市中央公民館 係長

大 石 直 子

高齢者が「きがるにつどい いきいき学べる」 公民館運営の在り方

～公民館講座・自主学习グループ活動支援を通して～

鹿児島県鹿児島市喜入公民館

主査 牧之瀬 陽 一

1 はじめに

(1) 地域の概要

喜入地域は、鹿児島市の南部に位置し、錦江湾沿いに南北16km、東西6.2kmの細長い形をなし、南は指宿市、西は南九州市に接する都市近郊型の町です。

(2) 地域の実態

喜入地域は旧喜入町であり、平成16年11月に旧鹿児島市と合併し鹿児島市の仲間入りをしました。6校区公民館がありそれぞれ特色ある取組を行っています。

喜入地域の人口は、11,610人（平成24年10月1日現在）であり、60歳以上の方々が約4割を占めており、60から69歳が人口の中でも一番多い割合を占めています。少子高齢化が顕著になってきている地域です。

(3) 活動のねらい

喜入公民館は、市内14地域公民館の一つです。「きがるにつどい いきいき学べる れきしとまちづくりの館」を合い言葉にし、地域内の歴史的な史跡や文化財、郷土芸能、天然記念物など特色を生かした講座や行事の推進、家庭教育の充実や青少年の健全育成活動等の支援など、地域に根ざした公民館運営を目指しています。

公民館講座や自主学习グループなど本館の利用の中心は高齢者です。そこで、高齢者にとっての現代的課題や健康問題の解決など、より潤いのある生活の支援ができるよう工夫しているところです。特に高齢者向けの講座開設に当たっては、校区公民館や地域のお達者クラブ、保健センターとの連携が不可欠です。

2 活動の内容

(1) 高齢者を対象にした講座の開設

喜入公民館では、前期・夏季・後期合わせて26講座を開設しています。そのうち、住民のニーズを把握しながら7講座が高齢者対象の講座になっており、本館で行う講座と移動講座として各校区で行う講座を開設しています。

ア 高齢者のためのパソコン教室

高齢者を対象に4講座を開設しました。特に人気が高かったのが「高齢者のインター



ネット体験」で応 高齢者のパソコン教室の様子
募率が119%でした。メールの発信や受信、ネットショッピングなど学んだことを生かして、潤いある生活につながっているようでした。

イ 喜入高齢者大学（移動講座）

喜入地域は南北16kmと距離があるため、交通手段を持たない高齢者がなかなか本施設へ来たくても来られない実状があります。そこで移動講座としての「喜入高齢者大学」を実施しました。事前に各校区公民館や地域のお達者クラブ等に出向き、地域の方々が学びたいこと、楽しみたいことをリサーチしてから計画を立てた。「懐かしのメロディ」「三味線鑑賞会」「心の健康」「健康体操」「被害にあわない消費者教育」「方言紙芝居」等、みんなで楽しんだり、学んだりする機会を提供することにより、多くの高齢者に集まってもらうことができました。

(ア) 懐かしのメロディ

どの校区からも一番リクエストの多い講座内容でした。講師の伴奏のもと、楽譜・歌詞カードを見ながら懐かしい歌を歌う活動です。感想としては「学校に戻り、クラスメイトと歌っているようで学生気分が味わえ、歌いながら当時の思い出された。」という声が聞かれました。

(イ) 健康体操

講師の軽快なトークのもと、一人一人の体の特徴を把握しながら指導され、体を動かす心地よさ、大切さ、体に対する理解を深めることができました。楽しい雰囲気の中で、参加者は笑顔で汗を流していました。

(ウ) 被害にあわない消費者教育

消費生活アドバイザーを講師に、現在多く発生している振り込め詐欺等について学習し、鹿児島弁を使つての劇化、被害にあった際の対応についての説明等を通して、充実した学習ができました。

(2) 自主学習グループの支援

喜入公民館には、27の自主学習グループがあり、その活動の支援をしています。音楽、文芸、舞踊などのグループがあり所属しているほとんどの方々が高齢者です。どの方も活動に生き生きと参加されており、毎回の活動が終了したときは充実した表情で帰って行かれます。



文化祭での自主学習グループによる発表の様子

学習成果の発表の場として喜入地域総合文化祭や鹿児島市

主催の公民館音楽祭、サンエールフェスタがあります。これに向けてどのグループも意欲的に活動しています。また、ボランティアとして高齢者施設等を訪問している自主学習グループもあり、施設の方々に喜ばれています。また地域活性化の取組としてボランティア清掃をしたり、各グループの親睦を図るためのスポーツ大会や研修視察を行ったりしています。

3 評価・成果

各講座終了時のアンケートで、市民の方々の講座開設希望、回数、指導法はどうかなど市民のニーズにできるだけ応えられるよう努力しています。

高齢者対象の講座は、全ての講座において応募率が100%を超え、特に移動講座の「喜入高齢者大学」は応募率135%でどの校区に行っても会場いっぱいになり人が集まり、学習意欲の高さと地域ネットワークの力を垣間見ることができます。また、パソコン講座においては、講座開始30分前にはほぼ全員が着席し、前回の復習を各自で行ったり、講座生同士でお互いに教え合ったりする姿が見られました。

自主学習グループは、それぞれのグループの活動が充実してきており、独自で発表会や作品展等に参加したり、他のグループと共同で催しを開いたりとさらに意欲的に活動しています。また、昨年度の研修視察は、美術館と芸術コースのある高等学校を訪

問し、各自の資質の向上とお互いの親睦を図ることができました。

4 今後の課題

(1) リーダーの高齢化、後継者の育成

どの地域・どの自主学習グループにおいても後継者の育成が課題です。新しい風を入れて活性化を図ろうとするものの、中心となる方が固定化してしまっています。リーダーを計画的に育成するとともに、リーダーを務める期間も限定して多くの方々が関わっていくようにしていく必要があります。

(2) 講座受講生の固定化の解消

人気のある講座にいつも同じ講座生が受講している状況があります。講座の魅力を市民に伝えられるような広報の仕方を工夫していくとともに、継続して受講している講座生には、知り合い等に講座の魅力を伝えていただいたり、自主学習グループへの移行を支援したりしていきたいです。

(3) 関係機関等との連携強化

昨年度のアンケート結果から、本地域には、各年齢層においてその年代なりに様々なことを学びたいという意欲を持っている方が多いことが伺えます。その意欲を支援するためにも各機関等との連携・協働しながら公民館運営をしていきたいです。

また、喜入公民館では青少年健全育成の取組としてJLC（ジュニアリーダークラブ）の育成を行っています。中高生の若い力を生かしながら、高齢者の方々と交流を通して、共に活動するようにしていくことも検討していきたいです。

5 おわりに

本地域は高齢者がネットワークを使って誘い合つて学習したり、自分たちで地域のために何ができるか考えて行動したりするマンパワーを持っています。高齢者がとても元気です。それが、喜入の良さです。公民館はその力をうまく生かし、地域活性化の支援の充実を図っていくことが何より大切であると考えています。

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」

～校区コミュニティバスの取組～

福岡県糸島市立福吉公民館

館長 森田季久

1 はじめに

(1) 糸島市の概要

～人も元気 まちも元気～ 新鮮都市 いとしま
平成22年1月1日に、前原市と二丈町、志摩町が合併し「糸島市」が誕生しました。

糸島市は、福岡県の西部に位置し、北側には玄界灘に面した美しい海岸線が広がり、南側には背振山系の山々が連なっています。

○ 糸島市立公民館数16館（各小学校区ごとに設置）

(2) 福吉校区の概要

糸島市の西端に位置し、九州唯一の鳴き砂浜を有する自然環境に恵まれた農・漁村地域です。交通網は、国道202号とバイパス、JR筑肥線が東西に並行して走り、特にJRは3駅を有し、福吉駅周辺は、開発による新興住宅地として発展しています。

しかし、世帯数の増加と裏腹に、校区の人口は減少傾向にあり、しかも高齢化率（30.1%）が進んでおり、糸島市の中でも2番目（15校区中）に高くなっています。

また、年少人口（15歳未満）も糸島市の平均を下回っており、高齢者独居世帯や高齢者世帯の増加など、少子化と併せ大きな課題を抱えている校区でもあります。

○ 公民館主催講座「高齢者教室」の取り組み

- ・ 体力測定
- ・ 交通安全教室
- ・ グラウンドゴルフ体験
- ・ 太極拳体験
- ・ 唱歌を歌おう体験
- ・ バスハイク体験

2 活動の内容

(1) 取り組みのきっかけ

平成23年3月に福吉校区まちづくり推進計画の策定を行い、校区の現状と課題を整理して、10年後の将来像“自然豊かで、住み続けたいまち ふくよし”をキャッチフレーズとして、これからの校区まちづくりを進めることになりました。

福吉校区では、高齢者に関する対策が大きな課題であり、その取り組みの一つが「福吉校区自主運行バス（校区コミュニティバス）」の取り組みです。

ア 住民アンケートの実施

- ・ 福吉校区は暮らしやすいと答えた人…63%（理由）自然環境のすばらしさ、新鮮な海・山の幸、住民の人柄の良さ
- ・ 交通の便が悪い…52.8%
- ・ 高齢者の生きがい、活躍の場が少ないという意見も多い。

【高齢者の声】

- ・ 近くに買い物するところがない。
- ・ 市本庁や支所まで行くのに、交通手段が電車だけ（そのJR駅も階段が長くてつらい）
- ・ 子どもと同居していても、昼間は不在のため車を頼めない。
- ・ 日用品は近所の人買い物に行く時に頼んでいる。

イ 福吉校区の課題

- ① 高齢化率が非常に高く、高齢化対策が必要です。
- ② 高齢者が活躍する場、集う場が少ない。
- ③ バスなどの便が悪く買い物など不便。
- ④ 高齢者や子どもの見守り活動など、組織体制を整備。
- ⑤ 地域資源の積極的活用が望まれます。

(2) 校区コミュニティバスが走り出すまで



【バス協議会】

- 自主運行バス検討委員会の設立…平成23年5月24日（16回開催）
- 運転機能講習（運転ボランティア）…平成24年1月19日
- 自主運行バス運行記念式典、試験運行開始…平成24年1月24日
- 自主運行バス協議会の発足
- 本稼働…平成24年4月19日



【運行記念式典 ～出発！～】

ア 設置目的

福吉校区における自主的な乗合自動車の運行によって、校区住民の生活交通手段を確保し、もって地域の活性化及び福祉の向上を図ることを目的とします。

イ 協議会のメンバー

- 福吉校区各行政区長（自治会長）
- 各行政区長が推薦する者
- ボランティア運転手
- 事務局（福吉公民館）

ウ 運営方法（事業概要）

- 運営（規約、運営要綱、役員、委員など）に関する決定は、自主バス運行協議会で決定します。
- ボランティア運転手、助手…14名※運転手は自動車学校で研修会を実施。
- バス停の場所を各行政区で決定し、時刻表を作成します。
- 火、水、木の3コースに分け、1日午前と午後の1回運行します。
- 時刻表を全家庭に配布し、バスの運行開始と、乗車は予約者を優先することを周知します。

エ 予算

- ・ 収入→市共創プランまちづくり補助金、校区振興協議会助成金など

- ・ 支出→会議費、事務費、実費弁償、保険（ボランティア）、備品購入費など

※運行バスの諸経費については、市負担とする。

※実費弁償→ボランティア（運転手・助手）…半日500円、1日1,000円

3 評価・成果

(1) 利用者の声

- 今まで利用者からのクレームはゼロ→ボランティアの対応がいい（ボランティア精神・やさしい対応・臨機応変な対応）
- 利用が楽しみ（日頃、会えない人に会える・友達が増える・いい景色が見られ癒されるなど）
- 笑顔が絶えない
- 元気になっている
- サロンになっている
- 買い物が楽しみ（自分で見て、好きなものが買える）
- 仲間意識が強くなる。（日頃、利用される方が乗られないと心配され、家まで見に行かれたりする）

(2) ボランティアの声

- やりがいがある。（楽しみ、喜んでもらえる）
- 無理なくやっている。（ボランティアが多い）
- いつも安全運転に心掛ける。（事故等の心配、山道が多く狭いところが多い）

4 今後の課題

(1) 運営上の課題

- 利用者が増え、定員オーバーすることが考えられます。
- ボランティアの運転手に70代の高齢者が多く、新規登録者が必要です。
- 運営費の収入として市からの補助金が大半であり、今後、市の補助金カットなど考えられ、予算の確保について検討が必要です。

(2) 公民館の課題

運行の支援や協力は積極的に行っていきたいが、本来の業務に加え運転手さんの手配や予約受付、利用者集計などの業務の対応が厳しくなっています。将来的には、運営協議会による専属の事務員配置を希望しています。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

第4分科会

人権教育

討議のテーマ

人権を尊重し、明るい社会づくりに向けた公民館活動の
在り方

討議の柱

- ①人権感覚を高め、明るい地域づくりをめざす公民館活動の
在り方について
- ②共生社会の実現をめざし、人権教育を推進する
公民館活動の在り方について

◇発表者

佐賀市立久保田公民館 公民館主事
(佐賀市役所久保田出張所教育課 生涯学習係長)

吉田 浩子

福岡市青葉公民館 館長

山本 佑治

◇助言者

佐賀県多久市中央公民館 館長
(佐賀県公民館連合会 副会長)

川内丸 信吾

・司会者 北九州教育事務所 主任社会教育主事

松井 淳

・記録者 福岡市東区役所地域支援課 地域支援係長

上野 真由美
内野 保基

・運営責任者 福岡市市民局 公民館調整課 運営係長

日野 雅彦

・会場責任者 福岡市市民局 公民館調整課 管理係長

守田 宣昭

・受付責任者 福岡市市民局 公民館調整課 事務吏員

村上 由起

共に支え合い、共に生きる「共生社会の実現」に向けて

～学びから行動へ～

佐賀県佐賀市立久保田公民館

公民館主事 吉田 浩子

1 はじめに

佐賀市は、佐賀県のほぼ中央に位置する県庁所在地です。2005（平成17）年及び2007（平成19）年における2度の市町村合併を経て、東西約22km、南北38km、面積431.42km²の南北に長い市域となりました。ここ久保田町は、佐賀市南西部に位置し、人口は8,380人（平成25年度4月末現在）、人々の職種は、農業、漁業、会社員、自営業と多様である。町の歴史は古く、長崎街道の宿場町でもありました。校区内の学校、佐賀市立小中一貫校思斉館の名前は江戸時代の学問所「思斉館」に由来しています。また、「見賢思齊」の精神が、次世代を担う青少年教育に引き継がれ、町づくりにも生かされています。

1976（昭和51）年から、明るく住みよい町づくりを理念に、地域住民が同和問題の解決を自分の問題として捉えることが出来るよう、同和教育・啓発活動に取り組んできました。その後、2001（平成13）年からは「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」の施行を受け、人権尊重を重視した町づくりの推進を図っています。

2 活動の内容

2007（平成19）年10月、佐賀市と合併。2008（平成20）年策定「佐賀市人権教育・啓発基本方針」により、すべての市民の人権が尊重され、ともに支え合い、ともに生きる「共生社会の実現」をめざし人権教育・啓発事業を推進しています。

（1）出前講座「明るい町づくり映画の集い」

1976（昭和51）年から、公民分館※（31地区）に出向き、地域住民に啓発事業を行っている（全地区を5年で1巡回）。昨年度は6地区105人の参加がありました。

地域巡回には、行政職員と学校職員が同席し、社会同和教育指導員の講話や映画視聴のほか、学校での人権教育の様子を紹介しています。このように行政、学校、地域が連携して講座を持つことにより、問題点や解決方法が明確化され、参加者

に親しみやすく、わかりやすいと好評です。

（2）「共に生きる」人権学習講座

市民に人権・同和問題に関して正しく理解し、人権尊重の意識を高めてもらうことを目的に、受講生を募集し、連続8回の講座を開催しています。様々な人権問題を、座学だけではなく、討議、朗読、合唱、現地研修などを取り入れ学んでいます。昨年の受講者は、延べ213人でした。

（3）「思斉館大学」（高齢者大学）の講座

原則60歳以上の市民が、健康で生きがいのある自己実現をめざし、積極的な社会参加の意欲を高めることを目的に年間10回の講座を開催しています。その中の1回は「人権・同和教育」についての講座を開催し、人権に関心の無い方にも、必ず人権について考えてもらう時間を作っています。



思斉館大学講座

（4）人権標語募集（思斉館小、中学部）

「人権」について感心を高めるとともに、人権感覚を育むことを目的として人権標語を募集しました。入賞作品は、ポスターとして地区の公民分館等に掲示しました。

- ・ゆうき出し いじめをなくす 思斉っ子
- ・考えて 言葉の重みや 大切さ

（5）「共に生きる」人権ふれあいコンサートとまなざしフェスティバル

①「共に生きる」人権ふれあいコンサート in 久保田
2011（平成23）年度に、人権コンサートを久保田町で開催（市内校区持ち回り）。先に実施された校区の担当者から「人権コンサートは、なかなか

人が集まらない」と聞き、多くの人が集まり、心に残るコンサートを目指しました。

キーワードは「共に生きる」

そして、「人権って難しい。関係ない」というイメージを打破すべく、聞くだけの受身のコンサートではなく、みんなが主役の住民参画型コンサートを計画。

◎校区の社会人権・同和教育推進協議会を中心に実行委員会を立ち上げ、行政との協働事業としました。

◎出演する団体は、「共生社会」を意識し、子どもも高齢者も、また「障がい」のある方も一堂に会することができるよう、久保田町内の福祉3施設と放課後児童クラブ、思斉館中学部吹奏楽部、地元コーラスグループに出演交渉を行いました。

◎趣旨に賛同されたプロのテノール歌手に出演及び校区内の出演者の指導を依頼。

◎出演者たちの練習はもちろん、老人クラブ、児童センターでのお手玉製作、自治会長による参加の呼びかけなど、実行委員及び各団体が準備が行われました。

◎当日は、会場を馬蹄形にして一体感がもてるように工夫。会場係に中学生のボランティアを配置。手話通訳、要約筆記、託児所を準備。

総勢420名が同じ空間、同じ時間を共にし、音楽という楽しみを共有、「ひと」と「ひと」がふれあうことで、人権を体と心で感じてもらいました。

②まなざしフェスティバル～まなざしの集い in 久保田～

佐賀市の「子どもへのまなざし運動」の推進を目的として2009（平成21）年度より、教育委員会、校区青少年育成協議会が主催し開催。思斉館の児童生徒の意見発表、中学生の伝統芸能浮立の披露、音楽等の公演を行ってきました。人権コンサートを経験したことにより、社会人権・同和教育推進協議会も主催者とし開催。子どもの命を守ること、子どもの人権を守ることを「まなざし宣言」に謳いました。手話通訳、要約筆記、託児所も準備。また、公演は、プロに交じって放課後児童クラブ合唱団ほか地域のみなさんも出演する東京音楽企画「サウンド・オブ・ミュージック」久保田版を企画しました。

3 評価・成果

人権を学習することで、住民の視野が広がり、公民館事業や地域の行事などに積極的に参加する住民の姿勢が見えます。

- (1) 学校と地域が一体となった人権教育の地道な取り組みにより、人権への興味関心が高まりました。
- (2) 共有するテーマ、時間、空間を持つことで、頭で考えるだけでなく共感することができ、人権を身近な問題と感じられるようになりました。
- (3) 住民参画型、協働による取り組みにより、「自分にも何かできる」と実感し、「共に生きる」共生社会への一歩となりました。

4 今後の活動

特別な事業をすることが人権教育や啓発ではありません。すべての公民館事業、地域の生活の中に人権の教育や啓発があります。「共に生きる」を実感でき、共生社会の実現を目指していきたいです。

- (1) 全住民が何かしらの人権学習を受ける機会を設けます。
- (2) 「人権って難しい。関係ない」から一歩踏み出した意識と、さらに「人権尊重のまちづくり」へ向けての行動につなげる人権教育・啓発事業を進めていきます。
- (3) 誰にも出番、役割があり、認められる場を作りだす、生きがいを感じる公民館事業の実施。
- (4) 「人権尊重」を土台とした、住民主体の町づくりを支援する場を提供していきます。



「共に生きる」人権ふれあいコンサート in 久保田

※「公民分館」…いわゆる「自治公民館」です。

障がい児（者）と共に 青葉校区の人権の取り組み

福岡県福岡市東区青葉公民館

館長 山本 佑治

福岡市東区青葉校区の概要

福岡市には小学校校区ごとに市立公民館が設置され全市に146館あります。東区は人口約30万人で公民館は28館あります。青葉公民館は青葉校区の拠点として、地域住民の安全安心のまちで、より豊かな生活や福祉の向上をめざし“自分たちのまちは自分達で”と活動しています。青葉校区には自治連合協議会があり、昭和60年4月1日に誕生しました。続いて青葉公民館が5月10日に落成いたしました。現在13町内で世帯数4,653世帯、人口12,351人（平成24年9月末現在）です。

青葉公民館の周囲は閑静な戸建て住宅地と東区で2番目に大きい青葉公園があり、芝生広場から遠くを見れば背振の山から糸島の雷山まで見渡すことができます。その公園の向かいに青葉小学校、東福岡特別支援学校、青葉中学校、就学前障がい児施設の東部療育センターが隣接し、さらに学校の南側に青葉公民館があり、このエリアに集中して施設が立地しているところが青葉校区の特徴です。

○東福岡特別支援学校の児童生徒とともに

この学校は知的障害児を対象にした学校です。小学部、中学部、高等部、があります。通学区域は東区、博多区を対象としています。児童生徒数230名を超えています。その中で青葉校区から通学している児童生徒は約10数名です。特別支援学校のPTA会長が「特別支援学校の子は他の校区の子もいるんですが…」と話を切りだすと、自治連合協議会会長は、破顔一笑して「特別支援学校の子も地域の子だよ」と言われた。「校区外から通っているけれども学校は校区にある。だから特別支援学校の生徒も校区の子だよ」と話されたそうです。今、私達の校区住民も同じ考えです。それよりも隣接の小学校、中学校の児童生徒の交流は素晴らしい。

1 療育センターの児童との交流

療育センターの児童は知的障害や肢体不自由児で

す。就学前の可愛い子どもです。

開校1年目に焼き芋交流を行いました。火を使うのでとても気を使います。準備するにあたって芋100個、予備の芋100個。ドラム缶2個、バーベキュー用木炭2箱、アルミホイル5本、新聞紙10日分、メンバーは公民館長、アンビシャス委員長、子育て連会長、地域ボランティア2名で行います。芋を洗い、新聞紙にくるむ次にアルミホイルに包んでザルに入れて子どもたちを待つ。クラスごとに子ども達がやってきて先生の指導でホイルに包んだ芋を火の中に入れる。焼き上がるのを待つ間子どもと先生は焼き芋の歌やお話しをきいて楽しんでいる。焼けた芋を開いて口にした時の表情がほころんでうれしいとわかります。結局、先生、お母さん、職員まで全員200個完売です。今年は施設内の空き地に芋を植えることにしました。耕運機で土を起こして芋の苗を植えました。収穫の時の子どもの顔が楽しみです。



2 障がい者の学習の場としての公民館は

特別支援学校を卒業して就職した人、作業所や施設に入所したひとたちの学習の場として、また人間関係のつながりとして仲間づくりの場や、レクリエーションを採り入れた「青葉のたまり場」を開いています。ここでは東フレンドホームによる出張講座方式です。毎月1回公民館の講堂で地域のボランティアの人や健全な人も一諸にピザやぎょうざ作り、絵手紙づくり、陶器、紙工作、初釜お茶会などに楽しんでいます。地域交流の場ともいえます。

3 地域支援ネットワーク会議の発足

障がいのある児童・生徒本人及び家族が、障がいによる差別を受けることなく居住地における豊かな生活を送ることができる地域を目指します。社会福祉の観点から民生委員、公民館等の社会的資源を活用し、学校教育と地域福祉医療機関、労働関係者との連携を図るためのネットワーク会議を開催することを目的としています。メンバーは東福岡特別支援学校青葉校区在住保護者、民生委員、主任児童委員、公民館、その他の関係者にて情報交換、家庭支援の相談をしています。発足して既に1年経ちました。

事務局は公民館

○垣根を越えたまちづくり連携と公民館の役割

障がいを理解してください！！

青葉校区では自治連合協議会で2カ月ごとにコミュニティ会議が行われています。13町内会長、小、中、支援学校長、東部療育センター長、幼稚園、各種団体長、PTA会長、公民館職員等のメンバーで校区全体の情報、行事、連絡などの交歓の場と共通課題の問題を提唱し、まちづくりの認識や確認を行っています。このコミュニティ会議で特別支援学校の校長先生から「障がいを理解してください。又ボランティアをお願いしたい。」と訴えられて、ボランティア養成講座が始まりました。校区社会福祉協会が窓口となって、公民館が「公民館だより」に掲載し公民館講堂を会場としました。広く呼び掛けました結果、講座後ボランティア参加者がたくさん集まりとても盛況でした。この講座は4年目を迎えます。



○特別支援学校児童生徒との交流

公民館の文化祭に作品の展示の出品協力を依頼しています。小、中、高等部とも積極的に協力してくれてとても感謝しています。また、学校のサービス班の実習にと公民館の窓ガラスを毎月清掃してくれています。公民館は、学校のパソコン班の実習訓練に校区の方の名刺注文を受ける窓口になり、お互いに顔が見える交流が続いています。

4 活動の成果

校区、団体、学校の協力のおかげで充分とはいかないけれどもなんとかやれているのではないかと思います。公民館の活動に理解していただいています。

5 今後の課題

公民館の役割であります「学ぶ」、「集まる」、「つなぐ」の役は当然ながら、障がいを持っている人に対する人間関係のつながりをどのように構築していけばよいかこれからの課題です。公民館は社会教育の施設というだけでなく、積極的に地域に課題を求めて、新しい公民館のあり方を考えていくことが必要と思われていますが、年齢や勤務時間、を含めて簡単なことではないと推察されます。自分自身の学習に時間が必要と感じています。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

第5分科会

自治公民館活動

討議のテーマ

豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方

討議の柱

- ①住民の生きがいづくりを促進するための講座とその運営の在り方について
- ②自治意識・連帯感を高めるための組織・運営の在り方について

◇発表者

長崎県田ノ頭郷自治公民館 元総務部長	田 中 康 彦
豊前市前川公民館	中 本 勝 子

◇助言者

長崎県教育庁 生涯学習課 社会教育推進班 係長	椋 本 博 志
-------------------------	---------

・司会者	京築教育事務所 主任社会教育主事	猪 本 満 昭
・記録者	京築教育事務所 社会教育主事補 北九州教育事務所 社会教育主事	井 上 育 子 村 井 政 文
・運営責任者	行橋市教育委員会 生涯学習課 係長	村 田 貴 志
・会場責任者	豊前市教育委員会 教育課 課長補佐	横 川 要
・受付責任者	上毛町教育委員会 教務課 社会教育係長	村 上 英 之

心身ともに健康で豊かな暮らしを目指して

～郷民「1サークル・1クラブ」参加活動の推進と郷民講座の活性化を通して～

長崎県波佐見町田ノ頭郷自治公民館

元総務部長 田中康彦

1 はじめに

波佐見町は、長崎県北部に位置し、町の東部は佐賀県に接し四方を山に囲まれた、長崎県内でも海に面していない唯一の静かな山あいの町です。

人口は15,253人、世帯数は5,070世帯（平成25年3月末現在）ですが、400年の伝統をもつ全国屈指の「やきものの町」として栄えてまいりました。

全国の一般家庭で使われている日用食器の13%は波佐見町で生産されています。町内には陶磁器に関する約400の事業所があり、町内の約2,000人が窯業関係の仕事にたずさわっています。

波佐見町では、波佐見テクノパークに立地した長崎キヤノンと400年の歴史を有する陶磁器産業、農業や温泉などとの共生を図り、「人と心が かよいあう 陶磁と緑のまち」を目指し、やきものの伝統と豊かな自然資源を融合させたグリーンクラフトツーリズムを積極的に展開し、交流人口の拡大を図っています。

町内には、「やきもの公園・世界の窯広場」、「陶芸の館・観光交流センター」をはじめとする観光施設や「陶郷中尾山」、「畑ノ原窯跡」など波佐見らしさを感じることができる所も多くあります。

また、四季折々に「桜陶祭」や長崎県最大の陶器まつり「波佐見陶器まつり」等、多彩なイベントを行っています。

私たちの自治会がある田ノ頭郷は、波佐見町のほぼ中心に位置し、人口が556人で世帯数は187世帯ですが、そのうち大半が会社員で、兼業農家や専業農家もありますが、年々減少傾向にあります。

高齢化も進み、平成24年度末には、75歳以上の高齢者が約100名にもなりました。また、核家族化で老人のみの世帯も増加しつつあります。

このような地域の現状を踏まえ、地域全体で高齢者を支え、お互いに手を取り合って、「心身ともに、健康で豊かな暮らし」を求めていくことを公民館活動の原点であるとの認識で活動しています。

2 活動の内容

(1) 1サークル・1クラブ活動～自主学習活動

高齢者が自宅に閉じこもりがちになる生活を解消しようと、自治公民館が主体となって「郷民“1サークル・1クラブ”参加運動」を展開し、その参加者は、のべ約200名に及んでいます。

ア スポーツ系クラブ

ゲートボール、グラウンドゴルフ、ミニバレーボール、登山、ゴルフの5クラブがあり、健康づくりに励んでいます。

イ 文化系サークル

カラオケ、書道、生花、押し花、青少年育成活動の「ひなたぼっこの会」、波佐見町の桜の名所となっているしだれ桜を守り育てる「しだれ桜保存会」の6つのサークルがあり、余暇の活用、文化教養の習得、地域のボランティア活動に励んでいます。

平成24年度「1サークル・1クラブ活動」実績

クラブ・サークル名	ゲートボール	グラウンドゴルフ	ミニバレーボール	登山	ゴルフ	カラオケ	書道	生花	押し花	ひなたぼっこの会	しだれ桜の会
登録者数	12	48	23	29	21	12	9	6	6	8	20
平成24年4月～平成25年3月活動者のべ 8,768人											

(2) 郷民講座～自治公民館講座

郷民の生活を豊かにしようと様々な活動をしています。今回は、健康ウォーキング「田ノ頭の史跡巡り」と「男の料理教室」を紹介します。

ア 健康ウォーキング「田ノ頭の史跡巡り」

- ① 樹齢130年余といわれている「田ノ頭のしだれ桜」



《田ノ頭のしだれ桜》

- ② およそ500年前に鎮西八郎為朝が建立したとの言い伝えのある光背に金の磨きがある金立「太郎丸の聖観音像」
- ③ 河童を祀ってあるといわれる「陣川の河童の祠」
- ④ 大村藩（長崎県大村市）家中のキリスト教信者の代表と言われている「福田金右衛門尉 平頼勝」の墓碑
- ⑤ 波佐見町が誇る立志伝の黒板兄弟の墓
- ⑥ 年間を通して諸行事が行われる、田ノ頭鎮守 薬師様
- ⑦ 樹齢300年ともいわれる「よどがわつつじ」が群生する、牧の内の大つつじ

などの史跡を歩きます。

平成24年度は、10月に実施し、子どもから高齢者まで約30人が参加しました。

イ 「男の料理教室」



《男の料理教室》

「男性も料理を作ってみなさい」という地域の婦人の強い勧めで、田ノ頭地区食生活改善推進委員会の厳しい指導を得ながら、慣れない手つきで料理を作りました。

前回のメニューはおにぎり、豚汁、肉じゃが、ほうれん草ときのこの和え物、アジのホイル焼き、刺身でした。

参加者数は15名でしたが、出来上がった料理は、自画自賛で舌鼓を打ちました。

(3) 「コスモスロード」作り～地域景観形成活動

子どもたちからお年寄りまで、地域住民が一体となって、幹線道路沿いの農道にコスモスの種を播き、「コスモスロード」を作り、地域の景観を守る活動をしています。

田ノ頭地区では、秋になれば、色とりどりのコスモスの花に囲まれながらウォーキングを楽しんでいます。

3 評価・成果

自治公民館が主体となつての「1サークル・1クラブ活動」や郷民講座、「コスモスロード作り」などを企画することにより、若者から高齢者に至るまで、幅広い年齢層が多様なスポーツやレクリエーション活動に取り組み、様々な特色ある生涯学習活動を積極的に展開することができました。

また、郷民も自発的に参加するようになり、皆が健康で充実した生活を送れるようになりました。

さらには、田ノ頭自治公民館の活動目標である、「心身ともに健康で豊かな暮らし」に向けて取り組んだことにより、体力向上や健康づくりに繋がっていくことが郷民の間で話題となり、お互いの体力や健康づくりに対してより一層の連帯感の向上とコミュニティ活動の活性化が図られました。

4 今後の課題

田ノ頭地区自治公民館は、今後も、子どもたち、壮年、熟年、老年の世代間格差を解消するために、地域ぐるみの活動を担うことにより、核家族化による高齢者世帯の増加に対応できる地域づくりを進めていきたいと思っています。

今後は、さらに地域住民との対話等を通して、地域住民のニーズを把握するとともに、活動の充実を図っていききたいと思います。

自治公民館を中心とした地域づくり

～きずな深まるボランティア活動～

福岡県豊前市 前川公民館

中本 勝子

1 はじめに

(1) 地域の概要・実態

私が暮らす豊前市は福岡県の東南部に位置し、人口約27,600人、南に修験道で有名な求菩提山、北におだやかな周防灘を望む自然豊かな地で、歴史と伝統に彩られた田園都市です。神楽などとても盛んで、定期公演もあり、近隣の市町からも多くの人を訪れます。主な産業は、米、柚、南瓜などの農業や、カキやカニなどの水産業、火力発電所や自動車関連産業などの工業です。但し、福岡市や北九州市から少し離れていることもあり、人口は減少傾向にある過疎地域です。

市内には中央公民館をはじめとする地域公民館が12館、前川公民館のような自治公民館（類似公民館）が98館あります。前川公民館は豊前市八屋の前川にあり、約220世帯520余りの人が関係をしています。現在の建物は平成13年に移転新築されました。市内では比較的新しく冷暖房も完備した公民館です。公民館は前川地区の人たちにとって自分の家と同じように大事な財産として活用しています。

公民館組織としては役員に館長・総務・会計があり、運営委員は区長をはじめ、老人会・婦人会・昭和会・子ども会・若獅子会などの各種団体の長10名で構成しています。



平成13年3月建立前川自治公民館

(2) ねらい

様々な行事や活動を通じて絆を深めながら一体感を生み出し、地域を盛り上げていくことを目的としております。

2 活動の内容

(1) 定期利用

ジュニアバレーボール、各種スポーツ団体の合宿、カラオケ、日本舞踊、声楽の会、各種団体の会議など、地域の方たちに多く利用されています。

(2) 特別行事利用

通夜・葬儀、八屋祇園（4月）、盆踊り（8月）、輪投げ大会、敬老会（9月）、味噌作り（婦人会、12月）、門松作り（年末）、餅つき大会（1月）でも利用されています。

ア 【八屋祇園】

福岡県の無形民俗文化財に指定されている豊前市山田にある大富神社の春の神幸祭です。4月に入ると前川公民館などを会場に若獅子会指導による子どもたちのお囃子練習が始まります。最初はバラバラでぎこちなかった囃子も祭りが近づくにつれて上手になり、その音に子どもたちはもちろん、まわりのおとなたちも心が躍り、次第に盛り上がります。

女性陣も同時に忙しくなります。祭り三日間の賄いがあるからです。煮しめやから揚げを準備し、前川地区に集まる人全員に振舞います。



お囃子の練習風景

この祭りは地区の人全員が一つになる大切な祭りです。みんなが1年中でもっとも楽しみにしています。この地区に生まれ育ってよかったと実感する祭りです。

イ 【敬老会】

9月の敬老の日に行う敬老会は、地域の各種団体、老人会、婦人会、子供会などが総力を挙げて取り組む大きな行事です。まず、敬老会対象者の送迎をし、一人でも多くの方々が参加できるように努めます。厳粛な式典から始まり、詩吟、踊り、銭太鼓、カラオケと様々なアトラクションが続きます。その中で子供会のみんなからお年寄りの方々へ呼びかけを行い、手作りの勲章を一人一人の首にかけてあげ、かわいい歌声でお年寄りを敬い、感謝の気持ちを伝えます。また、手芸部員からも心温まるプレゼントがあります。一年がかりで入念に準備し、当日感謝の気持ちを込め全員に送ります。お年寄りに大変喜ばれています。式典の最後は全員で大きな輪になり、炭鋤節を踊り、万歳三唱でフィナーレです。これも地区の全員がひとつになる大切な行事です。

ウ 【餅つき大会】

大寒に入ると餅つき大会をします。区民に回覧で呼びかけ、多くの方々の参加があります。子ども達と地域の方々とがふれ合うチャンスです。

地域の方々子どもたちに優しく教えながら行います。子ども達にもキネを持たせ、交替に餅をつかせます。また、餅を丸めさせたり、粉で顔一杯真っ白にする子、笑顔で一杯です。全員でつきあがった餅をいただきます。子ども会からは納豆餅、餡子餅、外にあんこがつくぼた餅など、多彩なメニューにくわえ、豚汁、コーヒー等もふるまってもらいます。すっかり満腹になり、地域のきずなも深まる餅つき大会です。

3 評価・成果

(1) 一体感を生み出す

豊前市の多くの自治公民館は各地区の寄り合い等の会議が中心で、大きな行事の中心として機能することが少ないようです。それに対して前川公民館は葬儀等の利用があり収入があることも大きいのですが、自主運営ができており、何よりも八屋祇園をはじめとする地域行事の中心として運営されています。

行事のたびに、地域の人々が集い、自分たちで話し合いを行い、利用しています。また、普段から利用者も多く、ここが地域の交流の場となり、憩いの場となっていることが地域に一体感を生んでいます。祇園祭もそうですが、敬老会でも子どもからおとなまでが様々な関わりの中で行事を盛り上げます。

(2) 台風のと きも

23年度の敬老会は台風のため実施が危ぶまれましたが、前川地区は、みんなが「やろうじゃないか。」という意見が多く、安全に気をつけながら開催しました。台風接近の中でしたが、多くの高齢者の方に喜ばれました。これらの地域の一体化が公民館運営の成果と考えます。

4 今後の課題

(1) 少子高齢化

ほかの地区も同様だと思いますが、少子高齢化がまず大きな課題です。豊前市では現在、東九州道の建設が進んでいますが、インターチェンジができる場所は、前川地区から5キロ近く山側に入ったところですが、また、国道も現在はバイパスができて少し山側に通っています。そのため、かつて豊前市の中心であった八屋は、市の中心から外れた形になっています。そのため、若い人を中心に人口が減っており、過疎地区になろうとしています。若者人口が減れば活気がなくなり、現在、元気な高齢者もいずれ活動ができなくなります。そうすると、色々な行事を担うことができなくなるのではないかと危惧しています。

(2) 財源の確保

もう一つは、財源の確保です。今でも節約に努め、収支のバランスの維持に努めてはいますが、現在の収入の確保は将来的には厳しい面も否定できません。市からの助成は増える見込みはなく、葬儀も多様化と小規模化、業者任せとなり、地域での利用は増えません。また、地域各戸負担をむやみに増やすこともできません。今後は新たな利用者の確保などが必要だと感じます。

(3) 最後に

課題も多い公民館ですが、何よりも地域の中心として、心のオアシスとしても存在感は私たち住民にとってなくてはならないものです。今後もよりよい公民館活動を目指してがんばりたいと思います。

MEMO

Lined writing area consisting of 24 horizontal dashed lines.

第6分科会

青少年教育

討議のテーマ

青少年の健全育成と体験活動を推進する公民館活動の在り方

討議の柱

- ①地域で子どもを見守り、育てる公民館活動の在り方について
- ②体験活動、ボランティア活動等を推進する公民館活動の在り方について

◇発表者

大分県由布市教育委員会 社会教育課 生涯学習係長 長谷川 美由紀
大刀洗町教育委員会 生涯学習課 社会教育指導員 宮崎 誠

◇助言者

大分大学高等教育開発センター 准教授 岡田 正彦

- ・司会者 北筑後教育事務所 主任社会教育主事 中原 聡
- ・記録者 北筑後教育事務所 社会教育主事 岩田 史江
石橋 篤
- ・運営責任者 大刀洗町教育委員会 生涯学習課 生涯学習係長 矢野 智行
- ・会場責任者 大刀洗町教育委員会 生涯学習課 課長 福永康雄
- ・受付責任者 大刀洗町教育委員会 生涯学習課 地域活動指導員 弥永 理恵子

由布市青少年教育の取り組みについて

大分県由布市教育委員会社会教育課

生涯学習係長 長谷川 美由紀

1 はじめに

(1) 由布市の青少年教育の取組の概要

ア 由布市の社会教育の組織状況

由布市は大分県のほぼ中央に位置し、人口約36,000人（H25年4月1日現在35,787名）です。由布市では、平成24年度の機構改革で、生涯学習課と中央公民館が一体となり、社会教育課となりました。業務は、従来の通り生涯学習係が施策・立案、公民館係が事業実施部門として行っています。

条例公民館は5館、旧大分郡3町のエリアをそれぞれのエリアをカバーする挾間公民館、庄内公民館、湯布院公民館。そして、旧湯布院町の2の小学校区にある川西地区公民館、湯平地区公民館があり、湯布院公民館に併設という形で、市全体の連絡調整を行う由布市中央公民館の併せて5館で事業を実施しています。（この資料について「各公民館」と記載がある場合は、挾間、庄内、湯布院の3館のことを言う）

イ 青少年教育事業の取組状況

由布市各5館プラス中央公民館が、それぞれ地域で事業を展開しています。国県の委託補助事業については、生涯学習係が窓口になり、学校支援地域本部事業については、各公民館にコーディネーターを配置し実施。放課後子ども教室は、団体育成の目的も含んで、各3地域の団体に事業委託を行って実施しています。

2 取り組みについて

(1) 挾間公民館

ジュニアリーダー育成事業…「J・L・S」クラブ

現在8名、毎週水曜日16:00～実施

それぞれの年代別にボランティア活動や地域活動に参加することで、地域とのつながりを確認するとともに、中学生は中学生の、高校生は高校生の自分たちができることを発見し自ら実践していく力を身につけます。

(2) 庄内公民館

小学生里山学校

夏休みの一日に交流体験施設「ゆうゆう館」で、小学生対象に様々な体験活動を行います。

【体験内容】お茶、自然遊び、竹細工、うちわづくりなど

(3) 湯布院公民館

ア おもしろ科学道場

子どもたちに科学への関心を持ってもらうため、身近な素材や話題を使って科学に親しんでもらいます。

イ ジュニアリーダー育成事業

中学生「ちょぼらクラブ」14名

高校生「リーダーズスクール」7名

それぞれの学年別にボランティア活動や地域活動に参加することで、地域のつながりを確認するとともに、中学生は中学生の、高校生は高校生の自分たちができることを発見し自ら実践していく力を身につけます。

(4) 中央公民館

ア 生活体験スクール

年4班×20名 3泊4日

市の交流体験施設「ゆうゆう館」を利用し、学校へ通いながら日頃の生活を自らで行い自立心自尊心を養います。また共同生活の中で協力する心などを育てます。

イ わんぱくウォーク

夏休み期 4泊5日

小学5年生以上30名、中学生12名

市内を歩いて縦断することで、自分の住んでいる市を知り、また共同宿泊や体験活動の中で協調性、地域の人たちと交流する中で異年齢交流の体験、そして子どもたちを支え見守っていくという地域での「支えあい」の体制づくりの支援をします。また長距離を歩くという挑戦を通して、子どもたち自身の可能性の発見の場と、生きる力を養います。



<わんぱくウォークの様子>

3 評価と成果

事業を実施したからといって、青少年がこう変わりました。という効果が、すぐ現れるものではありません。ただ、継続的な活動のなかで「小学校の時に中学生や高校生リーダーの姿を見て憧れました。」といって、リーダー研修に参加してくれるなど、次世代に引き継がれ続ける取り組みとなっています。

また体験活動においては、家庭や学校で体験することのない活動を提供することで、子どもたちの知恵や知識を補てんすることができ、またその指導方法によっては、子どもたちに考えさせたり実践させたりなど「生きる力」の養う場所として機能しています。



<リーダー研修の様子ーバルーンアート>

生活体験においては、3泊4日の中で生活活動の補完ができるわけでもないが、その中で、生活にはこの活動が必要だということ、あるいは毎日の生活の中で、掃除、洗濯、炊事などをこなしている保護者に対して感謝の気持ちを述べる子ども

が多く、一定の成果です。

ウォークについては、「みんなと協力し、あきらめずにがんばることができた」（5年女子）「あまり運動がすきじゃありません。けど、これに参加して歩く事が得意になりました。」

（6年男子）など、達成感や向上心を感じてくれる子がほとんどでした。今後、「生きる力」調査などを実施し評価をする必要を感じています。

4 今後の課題（方策・展望等）

地域に関心の少ない住民が多くなったと感じる昨今、それはなぜか？を考えた時に、小学生の頃は子ども会活動や公民館活動等で地域とつながりがあるが、社会的に視野や世界が広がる中学生、高校生の年代で、地域との関わりの場がなくなります。その「社会教育の空白期」で、いかに地域とつないでいくかが我々の課題であり、大人になって地域との関わりを意識できる人材を育てられるかに繋がるのではないか？中高生を巻き込んだ公民館活動が求められます。

また、子どもたちへのアプローチの際の課題として以下の3点が挙げられます。

(1) 子どもたちが多忙になっています。

小学生年代でも習い事やスポーツ少年団などが盛んです。時間設定により実施が難しいこともあります。

(2) 子どもたちの活動場の減少

子ども会活動の衰退

(3) 行財政改革による予算的・人的資源の不足

人員削減や予算の削減などで事業実施が困難になってきています。今後は、地域の方々や団体の協力など、どのように体験活動の場を提供できるかを検討していく必要があります。

「子どもチャレンジ教室の取り組み」

福岡県大刀洗町教育委員会生涯学習課

社会教育指導員 宮崎

誠

1 はじめに

(1) 大刀洗町の概要

大刀洗町は、筑後平野の北東部で、筑後川の中流域に位置します。総面積は22.83km²で、朝倉市・久留米市・小郡市・筑前町に接しています。人口は、およそ1.5万人で世帯数は、およそ4.8千世帯。小中学生の人数は1.3千人ほどで、町の人口に占める青少年人口（0歳～24歳）の割合は、24%ほどです。

町内には、4つの小学校と1つの中学校があり、高校・大学はありません。町の産業は、主に農業です。

(2) 活動の特色

平成24年度までは、子どもチャレンジ教室会員を事前に募り、会員制で活動していましたが、平成25年度からは会員として囲ってしまうのではなく、町内の小学生全員がいつでも誰でも参加できるようにしています。また、町内には「国指定史跡下高橋官衙遺跡」や「今村カトリック教会堂」など遺跡や史跡もあり、郷土史の勉強や火おこしなど体験学習に活用しています。

(3) 活動のポイント

大刀洗町では、町内に4小学校と1中学校があります。小学校を卒業すると中学校で一緒に学ぶことになるため、チャレンジ教室では町内の異なる小学校の児童の交流を活動のポイントとしています。

2 事業の内容

(1) 経過

大刀洗町中央公民館の子どもチャレンジ教室は、平成4年から学校週5日制が段階的に始まり、隔週土曜日に子ども達が家庭や地域社会で異校区・異年齢の仲間と遊び、自然体験・社会体験・生活体験などを通して、自ら考え判断して行動することを目的としてスタートいたしました。

(2) 連携・協力機関・団体等

小学校、校区センター

大刀洗町食生活改善推進会等各種団体

大刀洗町、ボランティア

(3) プログラム作成の視点

ア 異校区・異年齢の子ども達が交流し友情を深め、自立・自尊・協力し合う心を育てる。

イ ボランティア等地域の方々との連携・協力

ウ 大刀洗町の歴史的な遺跡を再発見

エ 大刀洗町が推進するニュースポーツ体験

オ 自然体験、社会体験、生活体験等 体験学習活動

カ 町内や他の市町村関係機関・団体との連携・協力

(4) 具体的事例

ア 事業の概要

(ア) 大刀洗町教育委員会主催

(イ) 時間は、午前8時30分～午後3時30分

(ウ) 教育委員会指導員とボランティアの協力をいただいて活動

イ 平成24年度の活動例

(ア) ソバの種まき～ソバ打ち体験活動



【写真は、ソバの種まきの様子】

(イ) 大刀洗町の歴史探訪フィールドワーク



【写真は、下高橋官衙遺跡で火おこし体験の様子】

(ウ) チャレンジキャンプ (長崎県五島)



【写真は、五島 野崎島「学塾村」での集合写真】

ウ 平成24年度の取組

- (ア) 自由参加へ移行を試みました。(全学年・高学年の別あり)平成24年度は、自由参加へ移行の試み。(何時でも・誰でも参加できるように考えたからです)
- (イ) 県内遠方への施設見学を取りやめ。(移動距離が長くなって活動の時間が短くなってしまったため)
- (ウ) 町の歴史的な遺跡・史跡をマイクロバスで巡るフィールドワーク。(大刀洗町の歴史を知る)
- (エ) ソバ種まき・粉挽き・ソバ打ちなど体験活動。(ソバができるまでの工程を知り、麺づくりの難しさを知る)

3 評価・成果

- (1) 小学校1年生から6年生まで異年齢の子ども達が集まる、コミュニケーションの場所が作れました。

- (2) 4つの小学校の子ども達が参加交流する活動として貢献できました。

- (3) 学校週5日制の子ども居場所作りとして、施設見学・工作・昔遊びなど、いろいろな活動を通して一定の成果がありました。

4 今後の課題

- (1) 活動を支えるボランティアの確保が難しい。
 - ア ジュニアリーダーや大人のボランティアを発掘して育てる活動の企画実施をします。
- (2) 子ども達の参加人数が減少してきています。
 - ア 活動のマナー化
 - イ 子どもチャレンジ教室と地域の活動日程・内容が重なっています。
- (3) 子ども達のニーズ把握のため、アンケート実施。
 - ア 4校区の子ども達があつまり異校区・異年齢のコミュニケーションの場所として、自立・自尊感情の育成や達成感、可能性を広げる力を育成する活動を模索します。
- (4) 平成25年度は、課題克服に向けて以下の項目に努力します。
 - ア 校区チャレンジへ積極的にかけ、アンビシャス活動へ移行する基礎をつくります。
 - イ 役場の関係各課と連携(町の図書館・健康福祉課など)
 - ウ 他の市町村との連携(近隣市町村)
 - エ 大学・高校との連携(ボランティアの発掘)
 - オ 情報収集と発信(広報紙・役場ホームページなどインターネット活用)。

MEMO

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

第7分科会

ボランティア活動

討議のテーマ

ボランティアや地域貢献活動による地域の活性化を目指した
公民館活動の在り方

討議の柱

- ①地域の課題解決をめざすボランティアや地域貢献活動の
在り方について
- ②地域の人材・資源を生かし、地域を活性化させるための
公民館活動の在り方について

◇発表者

熊本県益城町教育委員会 生涯学習課 係長

村上 康 幸

大牟田市三池地区公民館 館長

鷹尾 俊 介

◇助言者

熊本県生涯学習推進センター 審議員

野尻 絹 子

・司会者 南筑後教育事務所 主任社会教育主事

安達 浩 文

・記録者 南筑後教育事務所 社会教育主事

安達 幸 子
松 延 聡

・運営責任者 筑後市教育委員会 中央公民館 館長

水落 龍 彦

・会場責任者 筑後市教育委員会 中央公民館 庶務係長

中村 敏 和

・受付責任者 筑後市教育委員会 中央公民館 庶務係

弓木野 真 里

公民館がかかわる子ども事業

～公民館での学習を学校支援に活かす!!～

熊本県上益城郡益城町教育委員会生涯学習課

係長 村上 康幸
主査 寺本 和寛

1 はじめに

(1) 益城町の紹介

まず、益城町を紹介します。

益城町は、熊本県のほぼ中央北寄り、県庁所在地熊本市の東隣りに位置しています。空港、ICを有するなど立地条件にも恵まれており、人口は平成25年4月末現在で33,677人、今後も発展が期待されます。

(2) 公立・自治公民館の実態

ア 公立公民館 5館

イ 自治公民館 60館

本町の公立・自治公民館は、上記のとおりであり、特に、公立公民館（分館）は、合併前の旧町村に1館ずつ4館配置してあり、それぞれの校区及び地区住民が地域の特色を生かした活動を行っています。

自治公民館では、各地区の管理運営のもとに各種会合が行われ、地域の課題等が話し合われています。

2 活動内容

(1) 学校支援活動への公民館の関わりがスタート

ア 放課後子ども教室での取組

- ・平成20年度益城町では、放課後子ども教室の中で、多様な地域の協力者を参加させたということ、公民館講座生（そろばん教室）が学んで得た技能を生かすことで、公民館との連携がスタートしました。

(2) 益城町における学校支援の取り組み

ア 益城町学校支援本部の実態

- ・コーディネーター数 3人
- ・ボランティア登録数 400名ほど
- ・ボランティア開始年度 平成20年度

益城町では、平成20年度から3年間、国の委託を受け益城中央小学校を実施校として「学校支援地域本部事業」に取り組みました。益城中央小学校では、かねてから学校教育活動に地域の方を取り入れる取組がなされており、これを更に充実させることがねらいであったと聞いています。

(3) 益城町の学校支援の特徴

益城町の学校支援の特徴は次の4つです。

ア コーディネーターの配置

イ 公民館で学んだ知識を学校支援に生かす

ウ GT（ゲストティーチャー）ではなく

AT（アシスタントティーチャー）

エ コーディネーター会議の定期的な実施

特に力を入れている事が「公民館で学んだ知識を学校支援に生かす」です。

学校では習字やそろばん、ミシンの実習などで支援を必要としていました。一方、公民館では様々な講座を主催し、「学ぶ」機会を設けていましたが、それを「生かす」機会がありませんでした。コーディネーターがこの二つを結びつけられたのが、次に示した取組です。

現在（平成25年度）、益城町公民館では、教育委員会主催の講座を14講座実施しています。

また、自主講座として登録している講座が31講座あります。もちろん登録していない講座もありますし、公民館の分館、男女共同参画センターではさまざまなグループが学習に励んでいます。

これらのグループの中から、学校の要望に合うグループに学校支援のお願いをしています。

現在までに、そろばん・習字・囲碁・将棋・華道茶道など多くのボランティアグループからの協力をいただいています。

他に手芸や絵画など、さまざまな講座で学ぶ方にも学校支援の協力をいただいています。「学校での支援はできませんが、ぞうきんなら縫えます」ということでパッチワークサークルの方よりたくさんの方のぞうきんをいただいたこともあります。

今後、学校のニーズに対応した講座を開設し、公民館講座が学校支援のボランティア養成の役割を果たせることを期待しています。



【公民館講座そろばん教室学習の様子】

(4) ボランティアの保険

ボランティアの保険は公民館総合補償制度を利用しています。

ボランティアは必ず公民館ボランティアとして登録しており、学校側は公民館に対してボランティアの派遣を依頼し、公民館長よりボランティアへ支援の依頼を行っています。

3 評価と成果

(1) 公民館ボランティア、子どもたちの感想

ア 子どもから…「習字ボランティアさんへお礼のことば」

- ・おかげで習字が得意になり大好きになりました。
- ・筆をいっしょに持って、いっしょに書きながら教えてもらった時が、一番うれしかったです。

イ 公民館ボランティアの方から

- ・子どものためと思って始めたボランティアも、こちらが学ぶことがたくさんあります。もっとたくさんの人に協力してもらおうとうれしいです。
- ・ボランティアを通して自分自身の生活においての元気と心の活力と生きがいを感じています。健康第一に頑張ります。

ある保護者の方の話ですが、「親でもない、先生でもないボランティアである地域の方と関わることが子どもの成長に大切」「ボランティアの方々がいるだけで子どもたちも緊張感を持って勉強ができています」とおっしゃっていました。

また、最近気づいたことですが、公民館によく来る方は、いろんなところでボランティアをされてい

ます。自分の知識・技能が活かされる喜びを知っていて人のために活動することを楽しんでいるように思います。学校支援を通して、ボランティアの方自身も学び、生きがいを得ています。こういう方々を「子どもたちのために」活動させることができれば、本当に大きな力になるのではないかと感じています。



【墨絵ボランティアの様子】

4 今後の課題

今後、学校の要望に合ったボランティアを養成する講座を開設して、学校支援につなげていくことができたらと考えています。

これは、単に学校支援の充実に止まらず、公民館活動の活性化、ひいては学校を核として地域住民の結びつきを強めることにより、町自体が活性化にもつながるのではないかと考えています。

地域の力で育てられた子どもたちは、地域を育てる力になります。地域のおじいさん、おばあさん、おじさん、おばさんに育てられた昔のような状態に少しでも近づけたらよいと思います。

今後、学校支援のみならずボランティアの輪が町全体に広がっていくことを期待します。

その時、公民館がその大きな原動力となるように頑張っていきたいと考えています。

子どもの学びを支えるボランティアの育成・支援

～ミシンの授業支援から～

福岡県大牟田市三池地区公民館

館長 鷹尾 俊介

1 はじめに

(1) 大牟田市の概要

大牟田市は、福岡県の南部、九州の中心に位置し、東はなだらかな稜線の山々が連なり、西は有明海に面している温暖な気候のまちです。大正6年3月に市制を施行し、平成29年には100周年という大きな節目を迎えます。

石炭産業とともに栄え発展してきた本市は、炭鉱閉山という厳しい経験を生かしながら、これまで新たなまちづくりを進めてきました。

現在では、炭鉱閉山後の重点地域振興対策として進めてきた有明海沿岸道路、九州新幹線、三池港の三大プロジェクトの主要な整備が完成し、地域の潜在的な成長力が飛躍的に向上しています。

(2) 地区公民館の現状

公立の公民館（地区公民館）は市内に7館あり、担当エリアを複数の小学校単位としています。（小学校21校のうち、各地区公民館2～6の小学校を担当エリアとしています。）

H10年には大牟田市公民館事業方針を策定し、3つの柱、①学習活動の支援・推進②地域活動の支援・推進③ボランティア活動の支援・推進、に基づき事業を実施しています。

(3) ボランティアの育成・支援の背景

平成20年の社会教育法の改正において、学校・家庭・地域の連携・協力を促進することが国・地方公共団体の任務として位置づけられたことや、大牟田市公民館事業方針のボランティア活動の支援・推進の取り組みをより充実したものとなるよう進めていくため、学校との連携強化を図り、学校支援のボランティア養成を行う取り組みを進めてきました。

(4) 学校支援ボランティア養成講座のねらい

- ア 長年の経験で培った知識や技術を生かす場づくり
- イ 仲間との活動を通じた生きがいづくり
- ウ 学社連携による子どもの学びの支援

2 事業の内容

(1) 経過

小学校との意見交換を経て、平成21年度に家庭科のミシン授業の支援を行うボランティア養成講座（受講生17名）を実施しました。講座終了後は、ボランティアサークルとして「布れんずクラブ」が結成（12名）され、小学校でのミシンボランティア活動を続けてきましたが、より充実した活動ができるよう平成24年度にサークル会員の拡充を目的として、ミシン授業のボランティア養成講座を実施しました。（受講生13名）。



【小学校ミシン授業における実習の様子】

(2) 小学校ミシンサポーター養成講座（H24）

- ア 講義「ボランティアとは」、「仲間づくり」
社会教育主事及びボランティアコーディネーターによる講義
- イ 古着で作る上着（リメイク）製作
「布れんずクラブ」会員を講師とした実習
- ウ 一閑張り（小物）製作
「布れんずクラブ」会員を講師とした実習
- エ 小学校にお助け出動（ミシン実習支援）
「布れんずクラブ」会員を講師とした実習
4小学校に15回、延べ30時限
（受講生は2回以上実習に参加）
- オ 学校支援ボランティア活動について
元教員による講義

- カ 作品発表会
古着で作る上着（リメイク）製作で作った
受講生の作品展示

(3) 苦勞した点

H21年に実施した講座では、地区公民館も小学校も初めての取り組みであったため、ミシン授業での実習方法や小学校から求められる支援の内容把握、日程調整に苦勞しました。

H24年に実施した講座では、小学校での実習の回数を受講生（13名）の一人ひとりが理解しやすいよう、かつ講座終了後すぐに活動できるよう、数多く設けました。このため、小学校での実習を4小学校で15回（延べ30時限）、短期間で行うことになり、講師、小学校との調整に勞力を要し、実習すべてに出席した担当者の負担も大きいものとなりました。

3 評価・成果

(1) ボランティアの生きがいづくり、活動の場の開発につながりました。

- ア 子どもとのふれあいにより充実感を得ました。
- イ ミシンの技術・知識を生かし達成感を得ました。
- ウ 子どもへの支援による満足感を得ました。



【子どもたちがミシンボランティアに感謝の意を伝えている様子】

(2) 学習の効率化が図られました。

- ア 指導補助者を加えることによる量的サポート（補完）が図られ、子どもたちもミシンの授業で楽しく学ぶことができました。

(3) 地区公民館、ボランティア及び小学校との良好な関係が構築できました。

- ア 地区公民館と小学校の職員同士が身近に感じるようになりました。
- イ ボランティアと小学校との信頼関係が構築されました。

4 今後の課題

(1) 学校支援ボランティアとして活動するための心得をボランティア自身にもっと理解、認識してもらう必要があります。

- ア 子どもの安全が第一であること。
- イ 守秘義務を負うこと。
- ウ 学校の教育方針に沿って支援すること。

安定、継続した学校ボランティア活動を行うためには、これら3つのことを十分理解してもらえよう学習プログラムの構築が必要です。

また、ボランティア活動をする人は学校の信頼を得ることが安定、継続したボランティア活動につながることから、講座には学校への配慮、ルールの遵守等も組み込む必要があります。

(2) 地区公民館のボランティアの養成・支援に対する自己評価が必要です。

地区公民館が行ったボランティア養成講座の結果はどうか、よくなかった点はないか等、自己評価が必要です。自己評価をする上では、ボランティア養成講座を受けた人からの評価も次の講座にどうつなげていくか、改善を図る点では重要です。

それが地区公民館のさらなるボランティア養成講座の充実につながり、ひいては、ボランティア養成講座を受けた人のボランティア活動の充実につながっていくものです。しかしながら、その評価をどのような形で行うか、評価の仕組みづくりが課題となっています。

このため、地区公民館では他都市の事例も参考にしながら、ボランティアが地域で充実した活動ができるようにその役割を果たしていけるような自己評価の仕組みを構築する必要があります。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

研究大会 2 日目 全体会

平成25年8月30日（金）

会場 福岡市民会館

受付 9 : 00 ~ 9 : 30

アトラクション 9 : 30 ~ 10 : 00

「精華女子高等学校吹奏楽部による演奏」

開会行事 10 : 00 ~ 11 : 00

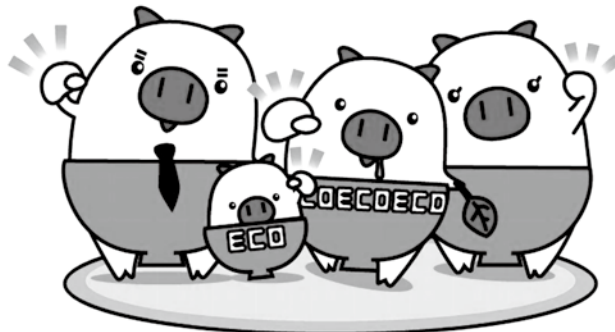
- ・開会のことば 九州公民館連合会副会長（長崎県公民館連絡協議会会長）
- ・国歌斉唱
- ・公民館の歌斉唱
- ・主催者あいさつ 九州公民館連合会会長（福岡県公民館連合会会長）
公益社団法人全国公民館連合会会長
- ・来賓祝辞 福岡県知事
福岡県議会議長
- ・歓迎のことば 福岡市長
- ・表彰

記念講演 11 : 00 ~ 12 : 20

- ・講師 野田 かつひこ シンガー・ソングライター
- ・演題 「ふるさとを想う」

閉会行事 12 : 20 ~ 12 : 30

- ・閉会のことば 九州公民館連合会副会長（鹿児島県公民館連絡協議会会長）



アトラクション

精華女子高等学校吹奏楽部プロフィール

本校吹奏楽部は、1978年に創部し今年で創部35年。学校、保護者の温かいご支援のもと、顧問の先生方と150名の部員で活動しております。この部活動では、友情の大切さ、人間として必要な社会性や人間性を学び、感動する音楽作りを最大の目標としています。「明るく・楽しく・元気よく、今できる最高の演奏、演技を！」をスローガンに、よい活動、素晴らしいステージを目指し毎日練習に励んでいます。

現在の活動は、吹奏楽コンクール、マーチングコンテストをはじめ、各種イベントや地域行事に出演し音楽の楽しさや感動を伝えることを目標に、年間の演奏回数は数十回にも及んでいます。(H24年度は100回を超えました!)中でも、1年の集大成である定期演奏会は、2日間の4回公演で、魅せて楽しませて、感動するステージを目指し、コンサートだけでなく、ミュージカルや合唱、マーチングに取り組んでいます。九州内外からも足を運んでくださるほど好評を頂いています。また、ローズパレード出場をきっかけに、ビッグバンドにも取り組んでいます。

平成24年度は、11月1日に名古屋国際会議場で行われた第60回全日本吹奏楽コンクールにおいて、8回目の金賞を受賞。また、11月18日に大阪城ホールで行われる第25回全日本マーチングコンテストにおいても、14回目の金賞を受賞しました。

また、12月16日にさいたまスーパーアリーナで行われた第40回記念マーチングバンド・カラーガード全国大会においても金賞を受賞しました。

受賞歴【抜粋】

- 2006年 ローズパレード出演
 ホリデーボールミュージックフェスティバル 総合優勝
 2006マーチングショーバンド世界大会
 パレード部門 ワールドチャンピオン 高校生部門 第1位
- 2011年 第59回全日本吹奏楽コンクール 金賞
 第24回全日本マーチングコンテスト 金賞
 第35回全日本アンサンブルコンテスト 銅賞
- 2012年 第60回全日本吹奏楽コンクール 金賞
 第25回全日本マーチングコンテスト 金賞
 第40回記念マーチングバンド・カラーガード全国大会 金賞



平成25年度 被表彰者一覧

平成25年度 優良職員表彰 被表彰者名簿 九州ブロック

都道府県	氏名	公民館名	職名
佐賀県	城野真澄 じょうのますみ	佐賀県佐賀市立嘉瀬公民館 さがけんさがしりつかせこうみんかん	館長
大分県	吉田直美 よしだなおみ	大分県豊後高田市田染公民館 おおいたけんぶんこうたかだしおごうみんかん	館長

平成25年度 永年勤続職員表彰 被表彰者名簿

都道府県	氏名	公民館名	職名
福岡県	大庭博行 おおばひろゆき	福岡県北九州市若松区第3区公民館 ふくおかけんきたきゅうしゅうしわかまつくだい3くこうみんかん	館長
長崎県	榎田善彦 えのきだよしひこ	長崎県五島市杵島地区公民館 ながさきけんごとうしかばしまちくこうみんかん	館長
熊本県	吉岡ていこ よしおかていこ	熊本県山鹿市平小城地区公民館 くまもとけんやまがしひらおざちくこうみんかん	指導員
熊本県	城富美子 じょうふみこ	熊本県菊池市七城公民館 くまもとけんきくちししちじょうこうみんかん	社会教育指導員
宮崎県	早瀬純一郎 はやせじゅんいちろう	宮崎県延岡市下赤公民館 みやざきけんのべおかししもあかこうみんかん	監事
鹿児島県	新澤京子 にいざわきょうこ	鹿児島県南さつま市津貫地区公民館 かごしまけんなんさつましつぬきちくこうみんかん	公民館主事
鹿児島県	大迫ちづ子 おおさこちづこ	鹿児島県垂水市垂水地区公民館 かごしまけんたるみずしたるみずちくこうみんかん	公民館主事
沖縄県	田端研二 たばたけんじ	沖縄県那覇市牧志駅前ほしぞら公民館 おきなわけんなはしまきしえきまえほしぞらこうみんかん	館長

記念講演

野田かつひこプロフィール



出逢いはメロディ。

ギター1本を愛車に乗せて、シンガーソングライター野田かつひこは、福岡県久留米市を拠点に各地を巡り、ふるさとの歌、いのちの歌を作り続けます。その土地で出会った人たちの思いや、懸命に生きる物語を紡ぎます。

多くは、どこかの誰かの、知らない人の物語。なのになぜか聞く人の胸に迫るのです。

.....
(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー 福岡支社
〒810-0801

福岡市博多区中洲5丁目4-18 ツイン・Kビル7階

電話：092-261-7870 F A X：092-261-7880

H P / 福岡よしもと公式 H P

吉本興業株式会社公式 H P

・Profile・

【略歴】

- 1992年 社会福祉業からアーティスト業に転職。
2004年 タイ僻地の村々へ公演ツアー。
2005年 国指定重要無形文化財「鬼夜」をテーマに楽曲「鬼夜」発表。福岡西方沖地震で被災した玄界島の復興を願って「僕のふるさと玄海島」を発表。
2007年 コンサート「さまざまな命の物語」を企画、公演。
2008年 ドリームスエフエム「野田かつひこのフォークふるさと劇場」スタート
2009年 3日だけの命を歌った「一輪の花」発表
2010年 熊本県保健科学大学医療ボランティアサークルの看護学生と楽曲「フィーリング」を発表
2011年 閉校を目前にした長崎県対馬市加志々中学校に寄せて「加志々が好きなんだ」を発表。
東北の被災地にケアコンサートで訪問。
韓国釜山でコンサート。命の恩人探しを本格化させる
鹿児島KTS「げっさんかごしま」で、ふるさとの曲作りを複数回に渡って紹介、スタジオライブ、生中継ほか。
2012年 7月、コンサート「さまざまな命の物語」を九州5ヶ所で開催

【作品】

- Album 「あぜ道日記」「さまざまな命の物語」「ふるさとのメロディ」「うき雲のメロディ」「僕のふるさと玄界島」「ひだまりのメロディ」「あぜ道のメロディ」「Pixy's design」「思いでポロリン」
Single 「筑後川」「春風にのって」「よかやんね」
劇音楽(劇団道化) / 「しょうぼうじどうしゃじぶた」
中国上海芸術祭最優秀賞受賞
2050年中国国内50か所公演。
2010年中国大使館(東京)にて上演
「番ねずみのヤカちゃん」「ナガサキ'んグラフィター」
「なにができるかな」「マッさんの工房劇場」
「西鉄ライオンズが強かった頃に」「あははのぶん」
「のらベンギンのベンじろう」「知覧・青春 ～アイ・アム・ヒア!」ほか
(劇団道化&劇団轍共同制作) / 「坂の上の家」

- 【レギュラー】 ドリームスエフエム「野田かつひこのフォークふるさと劇場」
久留米・筑後・佐賀エリア 9:00 ~ 10:00 日曜日

- 【CATV】 対馬市CATV企画番組
「The Last Message～加志々より愛を込めて～」
※2011年(平成23年)第37回日本ケーブルテレビ大賞
番組アワードの最優秀グランプリ(総務大臣賞)

- 【九州ツアー】 さまざまな命の物語(2007～2013年)
2013年 7月8日 熊本県熊本市 平成音楽大学サテライトステージ
10日 佐賀県みやき市 こすもす館サークル室
12日 大分県大分市 コンパルル400会議室
15日 福岡県志免町 シーメイトホール
20日 鹿児島県始良市 加音ホール 小ホール

- 【講演】 「さまざまな命の物語」「めぐり逢いのなかで」

- 【HP】 <http://www.h4.dion.ne.jp/~nodasan/index.html>

- 【ブログ「野田的歩記」】 <http://blog.livedoor.jp/nodakatsu/>

第64回九州地区公民館研究大会運営組織

九州地区公民館研究大会役員

会 長	九州公民館連合会会長	(福岡県)
副会長	九州公民館連合会副会長	(鹿児島県)
副会長	九州公民館連合会副会長	(長崎県)

大会運営委員

委員長	中 嶋 裕 史	九州公民館連合会会長 (福岡県)
副委員長	川 添 健	九州公民館連合会副会長 (鹿児島県)
	道 津 利 明	九州公民館連合会副会長 (長崎県)
運営委員	田 中 源 一	佐賀県公民館連合会会長
	阿 南 誠 一 郎	熊本県公民館連合会会長
	椎 葉 晃 充	宮崎県公民館連合会会長
	中 野 五 郎	大分県公民館連合会会長
	城 間 幹 子	沖縄県公民館連絡協議会会長
	木 原 茂	福岡県公民館連合会事務局長
	松 原 美 寿	佐賀県公民館連合会事務局長
	堀 輝 広	長崎県公民館連絡協議会事務局長
	福 澤 光 祐	熊本県公民館連合会事務局長
	法 雲 淳	大分県公民館連合会事務局長
	村 上 昭 夫	宮崎県公民館連合会事務局長
	北 園 博 之	鹿児島県公民館連絡協議会事務局長
	藏 根 美 智 子	沖縄県公民館連絡協議会事務局長

第 64 回九州地区公民館研究大会福岡大会企画委員会

第 64 回九州地区公民館研究大会事務局
〒 812-8575 福岡県福岡市博多区東公園 7 番 7 号
福岡県教育庁教育企画部社会教育課内
TEL : 092-643-3887 FAX : 092-643-3889

九州地区公民館研究大会の歩み

年	回	開催地	大会テーマ
平成元	40	福岡	「生涯学習社会に対応する公民館の役割・機能を考える」
2	41	鹿児島	「ふれあい学びあいの輪をひろげよう」
3	42	長崎	「生涯学習社会を創造する公民館活動を求めて」
4	43	宮崎 (全国集会同時開催)	「生涯学習の推進と地域づくりのために公民館の果たす役割を考えよう」
5	44	大分	「生涯学習振興の拠点としての公民館のあり方を求めて」
6	45	沖縄	「生涯学習の推進と公民館活動の活性化を求めて」
7	46	佐賀	「いま熱く焔える公民館活動！」
8	47	熊本	「今、求められる魅力ある公民館とは」
9	48	福岡	「住民とともに築く生涯学習社会と公民館」
10	49	鹿児島 (全国集会同時開催)	「青少年問題と公民館活動」
11	50	長崎	「住民参画に公民館活動の新たな創造」
12	51	宮崎	「新しい時代を拓く公民館活動」
13	52	大分	「21世紀の公民館活動を創造する」
14	53	沖縄	「新しい時代の公民館活動を創造する」
15	54	佐賀	「豊かな地域づくりを担う公民館活動の創造」
16	55	熊本 (全国集会同時開催)	「新しいまちづくりと公民館の創造」
17	56	福岡	「変化する時代の公民館活動の在り方」
18	57	鹿児島	「時代の要請に応える公民館」
19	58	長崎	「社会の変化に対応する公民館活動の新たな展開」
20	59	宮崎	「地域に学び、地域を結ぶ公民館の在り方」
21	60	大分	「人が育ち、人が集い、人が助け合う公民館の在り方」
22	61	沖縄	「結い（絆）の心で地域づくりを担う公民館活動」
23	62	佐賀 (全国集会同時開催)	「地域再建の活路を拓く『原動力』としての公民館」
24	63	熊本	「人と地域が輝くための公民館活動を目指して」
25	64	福岡	「活力と魅力あるコミュニティづくりをめざして」



平成25年度

(平成25年5月1日～平成26年5月1日)

自治公民館を含む
すべての公民館活動を
支援する制度です。

公民館総合補償制度

市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定められた「公民館の目的」に寄与するための施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された公民館もご加入いただけます。

1. 行事傷害補償制度 【災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約付帯)+見舞金制度】

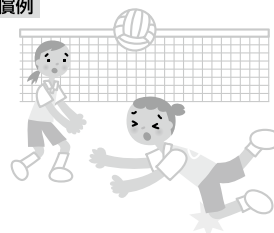
保険

- 公民館行事参加者のケガを補償します。
- 公民館利用者のケガを補償します。
- 行事の事前練習、準備中、後片付け、行事参加者の往復途上のケガを補償します。

見舞金制度

- 急性疾病に死亡弔慰金、入院見舞金(1日目から)を支給します。
- 公民館建物災害(火災・地震・水災)に見舞金を支給します。

補償例



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

行事傷害補償制度のここがおすすめ

手続きが簡単!

- 年1回の加入手続きで年間行事が対象になり、個別の行事予定の通知は不要です。

対象者が広い!

- 行事参加者や公民館利用者の居住地は問いません。
- 公民館が公認するサークル活動の参加者も補償します。
- 有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 親が参加する行事に同伴した同居の未就学児も補償します。

補償範囲が広い!

- 日本国内であれば、行事の場所は問いません。
※別に定める危険な運動中などは対象外です。
- 公民館が参加者を事前に名簿で把握している場合は、往復途上も補償します。
- 食中毒や熱中症も補償します。
- 宿泊をとまなう行事も対象です。

掛金の割引あり!

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入する場合には、掛金の割引制度があります。

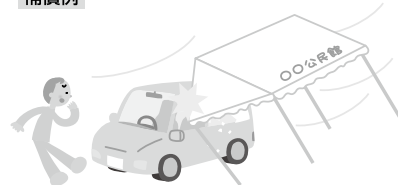
2. 賠償責任補償制度 【賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約付帯)】

保険

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償します。

注) 公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

補償例



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3. 職員災害補償制度 【普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約付帯)+見舞金制度】

保険

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償します。

見舞金制度

- 公民館業務に携わる方の病気や業務外のケガに死亡弔慰金や入院見舞金(1日目から)を支給します。

補償例



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成25年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー保険サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社

株式会社 損害保険ジャパン

営業開発第一部第三課

〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3

TEL 03-3593-6436

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー保険サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

TEL ☎ 0120-636-717

FAX ☎ 0120-226-916



平成25年度 公民館総合補償制度 ◆補償額と年間掛金 (平成25年5月1日午後4時から保険期間1年)

行事傷害補償制度と職員災害補償制度は、保険と見舞金制度を組み合わせたものです。掛金と<>内の保険料との差額は、見舞金制度の運用費用に充当します。ご加入の際にお振込みいただく金額は掛金ですので、ご注意ください。ただし、賠償責任補償制度は、保険料のみの金額です。

※加入口数は1公民館につき1口までです。

1. 行事傷害補償制度 <災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)+見舞金制度>

タイプ		S 型	M 型	L 型	O 型	
保険金額	死亡・後遺障害	600万円	800万円	1,000万円	1,200万円	
	入院(1日あたり)	2,600円	3,900円	5,300円	6,500円	
	手術	手術の種類により入院日額の10倍、20倍、40倍				
	通院(1日あたり)	1,400円	2,100円	2,800円	3,500円	
弔慰金 ・ 見舞金 (見舞金制度)	急性疾病死亡	10万円	10万円	10万円	10万円	
	急性疾病入院 (1日あたり)	3,000円	5,000円	8,000円	10,000円	
	※支給限度額は10万円					
	公民館 建物災害	火災 地震(改定) 水災	10万円 3万円 5万円	10万円 3万円 5万円	10万円 5万円 7万円	10万円 7万円 10万円
1公民館あたりの 年間掛金 ※掛金のうち<>内の 金額が保険料 (単位:円)です。	世帯 数 区 分	A 1001 世帯以上	81,000円 <72,500>	114,000円 <104,000>	153,000円 <134,400>	189,000円 <168,700>
		B 501 ~ 1000 世帯	69,000円 <61,800>	96,000円 <87,600>	132,000円 <116,000>	165,000円 <147,300>
		C 301 ~ 500 世帯	57,000円 <51,000>	78,000円 <71,200>	108,000円 <94,900>	135,000円 <120,400>
		D 201 ~ 300 世帯	42,000円 <37,700>	60,000円 <54,700>	81,000円 <71,200>	102,000円 <91,100>
		E 101 ~ 200 世帯	30,000円 <26,900>	42,000円 <38,400>	57,000円 <50,100>	72,000円 <64,300>
		F 100 世帯以下	21,000円 <18,800>	30,000円 <27,400>	39,000円 <34,200>	51,000円 <45,400>

2. 賠償責任補償制度 <賠償責任保険(施設所有管理者特約条項、昇降機特約条項等)>

タイプ	A 型	B 型	C 型	D 型 (NEW)	E 型 (NEW)
保険金額(1事故あたり)*	5,000万円	1億円	2億円	3億円	5億円
事故対応特別費用	保険期間中を通じ、1,000万円限度				
被害者対応費用	1回の事故について被害者1名につき1万円、かつ、保険期間中を通じて50万円限度				
1公民館あたりの年間掛金	3,000円	4,000円	5,000円	6,000円	7,000円

※1回の事故について、身体賠償と財物賠償のお支払額は合計して保険金額を限度とします。

* 免責金額(自己負担額)はありません。 * 賠償責任補償制度にお申し込みの場合は、行事傷害補償制度とセットでご加入ください。

3. 職員災害補償制度 <普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約)+見舞金制度>

タイプ		A 型	B 型	C 型	D 型	E 型
保険金額	死亡・後遺障害	350万円	600万円	800万円	1,000万円	1,200万円
	入院(1日あたり)	2,200円	3,200円	4,400円	5,400円	6,600円
	手術	手術の種類により入院日額の10倍、20倍、40倍				
	通院(1日あたり)	1,100円	1,600円	2,200円	2,700円	3,300円
弔慰金 ・ 見舞金 (見舞金制度)	死亡(疾病、業務外のケガ 業務中の地震によるケガ)	10万円	10万円	10万円	10万円	10万円
	入院(1日あたり) (疾病、業務外のケガ 業務中の地震によるケガ)	2,000円	4,000円	6,000円	8,000円	10,000円
1名あたりの年間掛金		2,700円	4,200円	5,500円	6,700円	8,000円
※掛金のうち<>内の金額が保険料(単位:円)です。		<2,120>	<3,320>	<4,500>	<5,570>	<6,730>

* 職員災害補償制度の保険部分については、団体特有の割引を適用しています(団体割引20%、優良割引10%等)。団体割引は、本団体契約の前年のご加入実績により決定しています。平成26年度以降、割引率が変わることがありますのであらかじめご了承ください。

※このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては下記エコー保険サービスまたは損保ジャパンまでお問い合わせください。

■引受保険会社

株式会社 損害保険ジャパン

営業開発第一部第三課

〒100-8965 東京都千代田区霞が関 3-7-3

TEL 03-3593-6436

■取扱代理店 (お問い合わせ・資料請求先)

エコー保険サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

エコー保険サービス(株) お客様専用フリーダイヤル(携帯・PHSからでもご利用になれます)

TEL(フリーダイヤル)0120-636-717

FAX(フリーダイヤル)0120-226-916

第64回九州地区公民館研究大会福岡大会
平成25年8月29日(木)・30(金)

平成25年8月発行

【発行・編集】

第64回九州地区公民館研究大会福岡大会事務局
〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園7番7号
〔福岡県教育庁教育企画部社会教育課内〕
TEL 092-643-3887
FAX 092-643-3889
E-mail fkoren@aurora.ocn.ne.jp

第64回
九州地区公民館研究大会
福岡大会

